

イスペラント研究

JARO XVII N-RO 2

ŜIRAITO-TAKI, AKVOFALO
TRE FAME KONATA, KAJ
LA MONTO FŬJI

REVUO ORIENTA

1936

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO FEBRUARO

我々の努力は年一年と蓄積されてゆく	41
地方會はかく働け	由比忠之進 43
國際觀光局を驚したエスペラントの偉力	矢島英男 45
目で視た地方エスペラント運動	久保貞次郎 43
Fonetikaj Signoj de Z. kaj Rusa Lingvo	川崎直一 51
動詞 Fari の用法(1)	小坂狷二 55
なぜこんな形か	川崎直一 57
Plena Vortaro 紹介	岡本好次 58
Patriota Knabino en Islando	鶴見祐輔 62
宗近兄をいたむ	松葉菊延 65
内外エス運動展望	67
Parolas Membroj	78
Parolas Redakcio	78
編輯後記	80

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85)5415 番 — 振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

目 的	エスペラントの普及、研究、實用
事 業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會 費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなすことあり
本 會 の	普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の普通會員(simpla membro)となる
入 會 手 續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理 事 長 大石 和三郎	同 東部部長 土 岐 善 磨	理 事 (常任) 三 石 五 六
理 事 井 上 仁 吉	同 發 博 西 成 甫	同 (同) 美野田 琢磨
同 元東北部長 井上 萬壽藏	同 藤 澤 親 雄	監 事 醫 博 鈴 木 正 夫
同 上 野 孝 男	同 監督局長 前 田 穰	同 堀 眞 道
同 小 坂 狷 二	同 發 博 望月 周三郎	同 清 水 勝 雄
同 中人教授 川原 次吉郎	同 柳 田 國 男	顧問 法 師 穂 積 重 遠
同 文 博 黒 板 勝 美	同 (常任) 大 井 學	同 子 三 島 章 道

本誌増頁斷行計畫樹立

會員各位の御援助を乞ふ

「學會の會員を勧誘したいが R. O. が貧弱なので無理にすゝめられない」とよく云ふのをききます。熱心な人は R. O. の内容や頁數の如何に無關係に會員になつてくれる。併し學會の會員を少しでもふやそうといふにはやはり地方の人々が勧誘するのに都合のよい様にしなければならぬ。それには R. O. の頁を増すことがもつとも必要である。

併し目下の赤字財政では何ともしようがない。そこでいろいろ考へた末増頁による支出増加を別途會計で支出する方法を講ずることに會計部と相談がまとまつた。そしてこの増頁のための支出増加は地方會及び熱心な會員各位の御援助によつて集めた新會員の會費で補填する計畫をたてました。

レヴオ誌は目下本文 28 頁であるが之を 40 頁に増加したいと思ふのです。いろいろ印刷所と交渉した結果今のまゝの編輯方法では無理ですが少し植字及印刷を樂にする様にすれば 12 頁の増加によつて月 20 圓位の支出増加ですむ様な見透しがつきました。つまり年額 240 圓です。之は丁度會員 100 名の會費に相當します。目下地方會は 100 以上あります。(尤も會員の非常にすくない會もありますし大變多い會もありますが)。ですから各地方會が一二名の新會員を勧誘していたゞければこれだけの支出がうめあはせがつくわけです。

大體は地方會の方々の御努力によつて 100 名の新會員をえたいと考へますが會員各位におかれましてもこの計畫の實行をできるだけ御支持下さいまして新しい會員を御紹介願ひます。

御紹介の新會員については来る 2 月 15 日迄に「レヴオ増頁につき新會員——氏を紹介します」といふ意味をハガキへ御記載御通知下さい。(右會費の御拂込は多少おくれても差支へありません。)御紹介者氏名は本誌上にて發表します。

この増頁の企てはきつと皆様の御支持をうることを考へ本號から既に増頁を斷行しました。既にこの企に賛意を表し御支援を申出られ新會員を紹介された地方會は

注意 この増頁斷行の爲御紹介下さる會員の會費は拂込の際 R. O. 増頁會員會費なる旨御明記下さい。猶この増頁會員會費に限り地方會取次の場合も割戻しをしません。

◇東京鐵道エスベラント會八名(氏名未詳)但内四名正維持員

◇宮崎エスベラント會五名(氏名未詳)

◇四日市エスベラント會四名(吉岡トラオ氏、神尾秋三氏、山本周太郎氏、稻垣コーキチ氏)

◇神戸エスベラント協會三名(前田健一氏、和田俊彦氏、上妻武治氏)但三名とも正維持員

◇帶廣エスベラント會三名(氏名未詳)

◇クララ會(東京)一名(井田千枝子氏)

◇エスクラピーダ・クルーボ(東京)一名(氏名未詳)

◇苫小牧エスベラント會二名(川原田彌一朗氏、村山自助氏)

◇日本エスベラント學會館野支部八名(飯塚道弘氏、石井顯治氏、梅村基氏、大久保章氏、眞田幸雄氏、杉浦政一氏、矢部了氏、山本巖一氏)

◇横濱エス協會二名(三橋專藏氏、吉川節氏)

◇大牟田エスベラント會十名(氏名不詳) ◇秋田エスベラント會一名(根本穆氏)

◇北越エスベラント會二名(帆刈喜四男氏、鈴木信一氏)

◇戸畑エスベラント會一名(氏名未詳) ◇行橋エスベラント會一名(")

◇飯塚エスベラント會四名(都甲國久氏、小島總三郎氏、片山政子嬢(正會員)、高取春子嬢)

◇城端エスベラント會一名(野村誠四郎氏)

◇桑名エスベラントクンシード一名(伊藤貞三氏)

◇名古屋醫大エス會二名(福慶逸郎氏、立松進氏)

◇高松エス會一名(平良文太郎氏)

◇熊本エス會三名(氏名未詳)

◇吳エス會三、四名

◇島貫清子嬢(個人)二名

新維持員氏名紹介

今年度からは、毎月、新しく維持員となられた方を誌上で紹介することにいたします。なほ、各地におけるエスペラント運動熱のバロメーターともなると思ひますから、紹介は地方別にし、さらに月日累計を出してゆきたいと存じます。

第一回〔1月15日までの新入會者〕發表

〔普〕とあるは普通維持員、他は正維持員、括弧内は紹介者。誌面の節約上、敬稱は省略します。

東京	稲毛徹、安藤秀、下野隆晟、須藤實、 畑正登、松井良樹 〔普〕 殷武巖、木村正太郎、清涼治芳、 田畑喜作、弘中一雄	甲府	入源八重子
大阪	池田一三、末廣俊熙、田島周作 〔普〕 堀部勇	神戸	小六清突
千葉	白井昇、丹野誠致	長野	本田光次
廣島	大藤軍一、横山高明	桐生	山本隆治
奉天	長坂雄二郎、堤文夫	岩手	熊谷冷光
札幌	〔普〕 寺澤迪雄、村山静子	神奈川	高木和男
名古屋	〔普〕 田中六藏、山中弘江	横濱	〔普〕 坂本忠子(村上澤子)
仙臺	鈴木保(鈴木北夫)	北海道	〔普〕 今官之助
函館	秋村鶴一	滿洲	〔普〕 佐藤剛
京都	西村勇	福岡	〔普〕 牧田定丸
京都府	浦田時男	若松	〔普〕 國崎リツ
鹿兒島	渡邊太郎	福岡縣	〔普〕 西崎武男
愛媛	和田規矩男	開城	〔普〕 王世均
		別府	〔普〕 大友富士美
		臺南	〔普〕 重栖彦哉
		石川	〔普〕 森三郎
		靜岡縣	〔普〕 吉井政吉

〔都市〕(人口十萬以上の都市、人口順) 東京正6普5計11; 大阪正3普1計4; 名古屋普2; 神戸正1; 京都正1; 横濱普1; 廣島正2; 福岡普1; 函館正1; 仙臺正1; 札幌普2

〔道府縣〕(上記の都市を除く) 北海道普1; 岩手正1; 群馬正1; 千葉正2; 神奈川正1; 石川普1; 山梨正1; 長野正1; 靜岡普1; 京都正1; 愛媛正1; 福岡普2; 大分普1; 鹿兒島正1

〔鮮臺滿〕 奉天正2; 臺南普1; 朝鮮1; 滿洲普1

合計 正27名 普21名 總計49名

LA REVUO ORIENTA

我々の努力は年一年と蓄積されてゆく

エスペラントの力は年一年と増大してゆく

我々の努力は我々全體の力の蓄積と増大に寄與してゐる

筆者がエスペラントをやり初めたのは大正八年で學會の出来る少し前だつた。だからもう十六七年も前のことである。今この十六七年前をふりかへつてみて之を今日と比較してみると實に我國のエスペラント運動は長足の進歩をしたといつても過言ではない。

大正八年頃は獨習書といつても一二種あつたきりだし、しかもそれが時々品切になつたり品切でないにしても發行所へ注文しない限りは手に入らぬといふ状態だつた。辭典といへばエスロツパで出版されたエスペラント書も殆んど輸入されてをらぬといふ状態で唯丸善などに英語書きの獨習書や辭書が一二種來てゐたといふにすぎない状態でエスペラントを勉強しようにも書物のない時代だつた。だから結局獨習書を一通りよみ毎月配布される16頁の Revuo Orienta をよむのがせめてもの勉強であつた。又エスペラントで會話をするといつても相手がゐない有様で東京以外には二三の大都市を除いては殆んど今日の如き會話會といふものゝ存在しない時代だつた。會話の手引をする書物を日本語で書いたものは一冊もなかつた。レコードもないから發音の獨稽古も不可能である。手紙を書くにも演説をするにも苦心したものだつた。一般世間でもエスペラントとは何かといふことすら殆んどしらぬ状態だつた。こんなことを云つても今日の人々は一寸想像できないだらう。今から十六七年前はこんなみぢめな有様だつたのだ。

それにひきくらべて今日の我國のエスペラント界は實に隔世の感がある。今日では發音の勉強をしたければレコードがあるし獨習書は既に數十種も出版されてゐるし辭典も大小とりまぜ十種にも上つてゐる。時々ラジオで講座の放送もあるし全國の有名な本屋なら一冊や二冊の獨習書や辭典のない所はないから獨習を志ざした人はすぐその日から最寄の書店の店頭で本を手にすることができる。會話の指導書も數種出版されてゐるし東京などでは會話會だけでもひらかれない日がないといふ程の盛況だし地方の小都會でも會話の練習の會がもたれてゐるからそれに出席すればよい。手紙の書き方の指導書も數種ある。講習用書や讀本の類も相當多種多様であるし語學的研究書も出版されてゐるのである。まだまだほしい書籍で出版されてをらぬものもある。しかし慾を云へばきりがない。とにかく一通りは何でもそろつてゐるのである。十六七年前の不自由さにくらべて比較にならぬ程の進歩である。

こう考へてみるとこの十六七年間に我國のエスペラント運動は長足の進歩をしてゐるといつてよい。不幸にして筆者は我國にエスペラント運動が始めて入つてきた明治卅九年頃のことは知らないがおそらくは十六七年前にくらべると猶一層のみじめさであつたらうと思ふ。

ひとり我國のエス運動がこの十六七年間に長足の進歩をとげたのみならず全世界のエス運動は大戦前に比して格段の進歩をとげたことは云ふまでもない。こゝでは唯日本のエス運動のみ

についてのべる。即ちこの十六七年間にエスペラントの力が全體として向上したのである。つまりエスペランティストの質が向上したのである。

人によつては大正十年の學會の會員數は一千名でありその後二千名を突破してゐたが近年は一千名内外といふ貧弱さであるからこの會員數のみをみる時は全エスペランティストの總數がちつともふえてゐないと考へるかもしれない。併しよく觀察してみれば會員數は依然として一千名でも全日本のエスペランティストの總和は年々増加してゐるのである。この事については次號で論ずることにしてこゝにはのべない。

今假りに學會の會員數が少しもふえてをらぬから十六七年間に全エスペランティストの總數は少しもふえてゐないと假定してこの假定の下においてもエスペラント運動は斷然質的に年々進歩してゐることは既に上述の如くである。即ちこの十六七年間に獨習書も辭書も文献も増加したのである。エスペラント全體の力の向上は何といつても文献の増大である。エスペラント書きの文献が年々増してゆくならば遂には社會百般の事象についてのエス語文献にことかゝぬ様な時代がキツトくる。こうなればエスペラントは日常の生活上重要な因子の一つとなることは云ふまでもない。しからば我々がエスペラントの必要を叫ばなくとも世人はエスペラントの實用的價值をみとめてエスペラントの學習を始めるであらう。

我が學會にしても毎年僅かに一千名内外の會員を擁してゐるにすぎないがしかも大正十三年出版事業を始めてからは年々數種の新しい文献を加えてゆくことができ昨年の如きは世界一 ampleksa な國語エス語辭典を出版することができたのである。世界各國のエス團體がこういふ風に年々エス文献をふやしてゆくならば五十年百年の後には我々の文献も汗牛充棟もたゞならざる状態になるであらう。

文献の蓄積はとりもなほさず我々のエスペラント運動の物的蓄積である。

我々はこの世におもひをいたすべきではなからうか。いたづらにあせつてはならない。地味な言語運動にすぎない我々の運動にはそう花々しいことはのぞまれない。しかし年一年と我々は文献の蓄積をつゞけてゆけばよい。我が國に於て社會狀勢がいかに我々の運動に對して mal-favora であるとしても我が學會では毎年一千名の會員を擁してをれば毎年數種乃至十數種の新文献をふやしてゆくことができる。文献がふえるにしたがつてエスペランティストの知力の水準も年一年と高まるのであることは云ふまでもないことである。

十六七年前には獨習書一冊を十二分に習得してしまへば大家としておしもおされもしないものになれた。今日では相當勉強しないと大家になれない。今後はますますむづかしくなるだらう。この事は年一年とエスペランティストの知的水準の向上することの立派な證據である。

年一年と文献が蓄積し年一年とエスペランティスト全體の知力の水準が高まつてゆけば早晚我々の最後の勝利の日がくるであらう。

エスペランティストの知的水準が高まれば高まる程有能な文献が要求される様になるし有能な文献が増大すればする程加速度的にエスペラントの實用性がふえてくるのだから年一年とエスペランティストの數が増大することは火を堵るよりも明かな事實である。

我々はあせつてはならない。健實に一步一步を力強くふみしめてゆこう。他の力をあてにしたり他の力を利用しようとすれば逆にキツトその力に利用されるのである。エスペラントに何の緣故もない力をたよることはやめよう。我々は我々エスペランティスト全體の力だけで此の綠化運動をおしすすめてゆくのではないか。過去 30 年の我國の運動をふりかえつてみて我々のエスペランティスト全體の力のみがこの 30 年間に蓄積されて今日の隆盛をもたらしたことをみるごとにこの感をふかくするものである。(岡本)

地方會はかく働け

實物宣傳のために各國の案内記
其他をあつめることにつとめよ

由比忠之進

久保特使の旅行記をよんでみると地方會があまり學會にたよりすぎてゐはしないかといふ感が深い。なるほど學會は中心機關である。だからといつてエスペラントの宣傳の仕事は大小に拘らず學會にまかせきりにしたり學會にばかりたよつてゐたのでは我々の運動は大きくはならない。學會の唯二人や三人の事務員の手でなされる仕事は大したものではない。エスペラント運動は多數の手を必要とするのだ。各地方會が獨力でできることは獨力でやるべきだ。

實は私も以前はそれほどでもなかつたが此頃では地方會が自分の手でやれることは學會にたよらずにやり中心機關としての學會のなすべき仕事については學會にまかせ又は學會に働きかけるべきだと考へる様になつた。

それで私は此頃は地方でのエスペラントの宣傳は専ら地方會の手でやる方針で常に宣傳に好都合な機會に出くわした時は出来るだけ逃さぬ用意をしようと決心した。

そして地方の有力者を緑化することにもつとも役立つものは世界各國で出版された案内記や afiŝoj その他の類であると考えた。有力者は大抵國際語の必要を理解する。併し實地に活用されてをるエスペラントを見せないと満足しない。この實物宣傳が一番有力だと思ふ。

それで私はこの頃では Revuo Orienta や「エスペラント」誌その他外國雜誌上で報告された新しい各國の案内記や Foiro の説明書やエハガキ等を集めることにした。そしていつでも國際返信切手券を用意してゐてそういつた記事がでたらかゝさずすぐに切手券を封入して請求する様にしてゐる。この間も伊太利トリノ市で出たローマ大會記念の出版のすばらしい大冊子を請求したら八部もおくつてきた。お蔭で之を圖書館その他に寄附して大いに宣傳に役立てることができた。我が國際觀光局からでた Japanujo も郵券二錢封入して學會宛申込みばもらえるのにまだ十分申込みぬ地方會が多いといふことをきいてなげかはしいことだと思ふ。この Japanujo など有力者に見せびらかすと大變有効だ。エス語と思想運動とくつゝける古い頭の持主には鑛道省でもエス語を活用してゐることを示しておどろかしてやるのにいい材料だ。地方同志の活用をのぞんでやまない。

又外國の同志に Japanujo をおくれれば同志はその國でエス語宣傳に大いに活用してくれる筈だ。だから外國の同志達の adresoj を書いて東京市鐵道省内國際觀光局宛に Japanujo を送つて下さいと申しこめばいくらかでも役所で郵税をはらつて送つてくれる。之も活用しなければうそだと思ふ。

以前は各國の案内記など必要があれば學會文庫からかりればよいと考へてゐた。所が學會へ交渉してゐたのではすぐの間にあはない。又必要に應じてはそれを有力者に進呈したい場合がある。こんなとき學會のものではだめた。しかもきくところによると學會ではいろんな展覽會や地方會へかしたためこういつた材料が却つて散佚して十分そなはつてゐないとの事である。だから猶更地方會各自が獨立してこういつた材料をあつめることに骨をおるべきだ。もつとも蒐集癖をだして何でもあつめるといふことはやめた方がよい宣傳によさそうなのを折にふれて

集めるようにするだけでよい。Kolektomanio は禁物だ。又一個人でこういつた資料を珍藏してゐる向は所屬地方會の活用にまかせる様從應すべきだと思ふ。

この機會にもう少し一般宣傳運動について愚見をのべてみたい。

エスペラントが未だ宣傳の域を脱して居ない事は何人も異論の無い事と信ずる。如何にしたら吾等同志の目指すエスペラントの時代を最も早く將來する事が出來ようか？ 私は、宣傳には次の三つの要素が必要であると信じて居る。

1. 講習會を開いて新しい同志を獲得する。
2. 有力者を味方に入れてエスペラントを必要とする空氣を醸成する。
3. 各部門に於て文獻を作る。

費用の點其他諸々の因子は有らうが、夫等は上の三要素を助成する派生的事柄と考へてゐます。而してこの三要素を活かすに人の和を以てする事が絶對必要條件ではあるまいか。

上の三要素の中、第三の文獻の項は、暫くおくとして第一と第二とが特に地方會の仕事として大切である。各地エスペラント運動の趾を見ると、上の二要素を和を以て十分に活かして居る地方會は盛大であり、そうで無い地方では運動が衰微して居る。如何に有能な者でも一人では限度があり疲れも早い。今度の特派使節の通つて來た趾を見ると、大牟田市のエス運動には實に見るべきものがある。第一と第二を完全に實行に移し、好成績を擧げて居るのを知つて實に愉快に堪へない。教へられる所多大である。斯る會から熱烈な希望を提出され、學會を鞭撻されたのはさもありなんと考へられる。事實積極的に運動しようとするれば學會に對してあゝもして欲しいこうもして欲しいと思ふ事が幾個でもでゝくる。學會今後の運動方針の樹立のために、此特使派遣は實に宜い企てであつた。と同時に、之と全く反對な、地方の同志をして學會を再認識させた効果も亦實に偉大で有つたと云ふ事も出来る。久保氏の報告には地方同志の希望要求を具體的に示した點が少ないから、詳細を知る由も無い、大した運動もしないで希望だけは盛に述べた地方も相當に有つた事が窺はれる。夫も勿論悪くは無いが、各人がもつと眞剣に自ら運動する必要は有りはすまいか。私は學會に要求する前に先づ自ら最善を盡す事が現下の最大緊喫事では無いかと痛切に感じた。勿論今日の様にエスペラントに都合の悪い時代には花々しい運動の出來ない地方が多數に有る事は事實です。そう云ふ地方は地方で又適當の仕事が有ると信じる。例へば長府の野原休一氏の如き、あの老齡にも拘らず孜々として文獻の爲に精進して居られる。而も私財を投じて迄も斯語の爲に働いて居られるのには自づと頭が下る。

地方の開発は地方で同志に依るより外に良い方法はありませんまい。學會が出来る範圍で援助するのは、義務であり、當然の事であるが上述の如く人手は無く、會員少なくて赤字續きの學會に現在以上を望む事は、稍不可能を強ふると云ふ感が無いでもないと思ふ。學會が有給事務員を置いてからは、會計以外は殆ど此事務員に任せ切りで、十年前のあの和氣藹々たる多數共働のあとが見られ無くなつた。私としても學會に對する注文は多々ある。然し貧弱な財力の中で山なす仕事を手際良く處理して居る學會に對し更に重荷を負はす事は、學會の基礎を危くする恐れがあるから私は之を敢へてする勇氣がない。兩雜誌の編輯方針とか、内容に關するものに就ては勿論別の問題である。

而して地方會が最善を盡して宣傳するには、捉へ得る機會を出来るだけ逃がさぬ事が肝要と思ふ。夫には平常から其用意が無ければならない。上述の如く私は先頃迄は何の計劃も無しに過して來たが、之ではいけない事を悟つて最近第二の要素の爲に少しづつ準備をすゝめてきた。即ち

1. 有力者緑化の爲の資料に各國の實用狀態調査及び案内記其他の蒐集（これについては既述の通り）

2. Neesperantistoj の洋行の場合外國の同志をしてエスペラントを宣傳させる爲の友人の獲得。

此外大牟田エス會の様に兒童作品によつて宣傳するのも大變良い方法であるし、自分の關係する仕事に關する資料を集めて關係雜誌等に發表するのも一つの方法と云ふ事が出來ませう。

私は筆不性から通信をした事が殆ど無かつたが、一昨年夏の女子オリンピック大會出場者に宣傳する際非常な不便を舐めた。UEA の Delegito 達は殆ど頼むに足りません。十數通の依頼狀に對し唯一人プラーハの親日家シュストル氏のみ驛に出迎へて呉れた様な状態です。ですから、各國主要都市に一人宛の通信相手を作るべく目下折角努力して居ます。

今年夏の萬國オリンピック大會は又無い宣傳の好機會ですから、全日本エスペランチストを總動員して役員選手の緑化に邁進したい。選手の中の一人でも緑化に成功して伯林其他に於いて其便利さを示す事が出來たら、吾運動は一大進展をするに違ひないと信じる。オリンピック大會に關する事柄は第二十三回日本エスペラント大會の決議もある事だから、遠からず本誌上に其具體案が出る事と思ふ。然し夫を待つ迄も無く本誌一月號 29 頁に書かれてゐる如く今から直ちに知人なり、其地方出身の役員選手に働かけて欲しいものと思ふ。

以上思付いた事を何等の統一も無く書連ねたが、私の云はんとする所は要するに各人各自の出来る範圍で、同志相協同して實行に移つて戴きたいと云ふ事です。大功を建てる事は勿論善い事に違ひないが、中々望み難い。多くを望まず、失敗にこりず、普及の爲に猛進しようではないか。

餘白を利用して皆さんにお知らせとお願ひ。

石川縣の「お國童話」のエス譯が縣立圖書館長中田邦造氏の好意で出版される事になり金澤エス會で翻譯に取掛つた。之は小坂氏の校閲の上で版にする筈ですから、エスペラントに好意を示して下さる中田氏の顔を立て、其上の援助がして貰へる様發行されたら出来るだけ皆さんに買つて戴く様豫め願ひして置く。

次に私の知人が二人伯林と維納とに研究に行きます。宣傳の爲に働いて呉れそうな通信相手を紹介して貰へれば結構です。

鐵道省國際觀光局を 驚かしたエスペラントの偉力

矢 島 英 男

近年世界觀光客の足は圓安の波にのつて物凄い勢で東洋へ日本へとむけられてゐる。國際觀光局の統計によれば渡來外國人の數は昭和 7 年度に 20906 人、8 年度に 26264 人、9 年度は更は大躍進をとげて 35196 人であり 10 年度に入つても依然としてこの好成績を持続し 10 月末迄の統計で既に 38462 人の入國者を記録してゐる故年末迄には優に四萬人を突破したものと豫想される。その觀光客の消費する金額は一億圓位ではないかと考へられてゐる。

而して昨年は觀光日本にとつて實に素晴らしい躍進の年であつた。東洋觀光會議、觀光祭、人形使節の來朝等々。

昭和九年度の事業として計畫された英、獨、佛、和、西、エスの六語による「日本案内記」が九年度末から十年度の初にかけて發行を見ることになつた。而して之等の案内記の發行が發表されて海外から國際觀光局宛に紹介がボツボツやつてきた。

これら外國語版の日本案内記はエス語版を除いて他のものはすべてその國の觀光協會や旅行協會へ大量に發送しただけでそれがどれだけの反響をもたらしただかは疑問である。それにくらべてエス語版は全世界各國のエスペラント團體に對し之が出版を報導したから各地の同志から紹介や申込が殺到したかは次の觀光局の供覽書類の寫を見ればわからう。

次に掲載したものは昭和十年度上半期（4月—10月）において國際觀光局で處理した日本案内の印刷物に關する諸通信の統計で（10月23日國際觀光局長決裁の上）供覽書類となつてそれぞれの係に廻布されたものの寫である。

觀協第四八二號

拾年拾月九日立案
〃 〃 二十三日決裁

事業課
庶務課
常務理事

印刷物配布申込數供覽

自昭和拾年四月
至 〃 〃 九日（上半期）

總數七百拾參通（別途立案ノモノヲ除ク）

内譯別紙

(第一表)

月 別 國 名	4 月	5 月	9 月	7 月	8 月	9 月	計
Germany	1	—	—	3	18	54	76
U. S. A.	8	8	9	2	22	19	68
Netherlands	1	1	—	1	18	36	54
				中略			
Mexico	—	—	—	—	—	1	1
Uruguay	—	—	—	—	1	—	1
Japan	3	6	7	9	17	12	54
Total	20	19	21	35	204	414	713

(第二表) エスペラント語關係

		4, 5, 6月	7 月	8 月	9 月	計
國 外	直接申込ノモノ	—	2	7	27	36
	日本人紹介ノモノ	—	19	163	299	481
國 内		—	1	5	4	10
計		—	22	175	330	527

(第三表は省略す)

即ち上の供覧書類に明示された如く昭和十年度上半期中日本案内印刷物に對する紹介の書狀は全世界から觀光局宛に總計713 通おくられたわけである。しかもエス語版日本案内“Japanujo”は他の語のものにおくれて7 月 19 日に發行されたのであるから4 月 5 月 6 月はエス語版に對する紹介は皆無であつたが7, 8, 9 月三ヶ月の中に上表の如く527 通といふ數字を示した。即ちエス語版についての紹介は全紹介の74 % に達してゐるのである。

之が觀光局をしていかにエス語の力がひろくゆきわたつてゐるかを示す證左となつたかはここに喋々する必要もないことと思ふ。

尤も上掲の第二表にみる如くこの期間は海外よりの直接の申込は僅か36 通なのに國內よりの紹介が481 通の多きに達してゐることは些か不思議におもはれるかもしれないがこれはエス語版案内記“Japanujo”はやつと印刷を終つたのが七月十九日であつたのでエス語版“Japanujo”の出現については海外エスペラント雜誌で十分紹介されてゐないからである。

而して海外のエスペラント雜誌は大體九月號(中には十月號)で“Japanujo”の出現を報じたので10 月以降はエス語版案内記“Japanujo”の申込が各國から國際觀光局宛に殺到したことは云ふまでもない。

今次に昨年の10 月 11 月 12 月の最終三ヶ月における“Japanujo”申込の紹介狀の統計を示すことにする。

國 名	直接申込ノモノ		日本人ノ紹介セルモノ				
	通信數	發送數	案内發送數				
	通	部		米國	48	75	7
				ユーゴースラブ	48	87	3
オランダ	266	2100	35	アルゼンチン	42	250	2
ドイツ	110	298	25	スエーデン	41	99	35
チェツコスロバ キヤ	97	208	11	オーストリア	34	76	15
フランス	92	244	25	伊太利	33	40	10
ポルトガル	56	126	2	ベルギー	30	99	208
英國	50	101	10	デンマーク	26	63	10
				スイス	26	67	5

スペイン	18	70	11	ノルウェイ	3	37	1
リトワニヤ	18	31	1	モロツコ	3	27	—
支那	18	27	—	ニュージーランド	3	9	2
ポーランド	17	30	6	ジャバ	2	12	—
エストニヤ	14	28	8	アルヂエリヤ	2	10	—
オーストラリヤ	10	42	5	メキシコ	2	5	—
ハンガリヤ	9	12	3	印度	2	4	—
ルーマニヤ	8	20	4	エヂプト	2	2	—
フィンランド	8	10	—	ギリシヤ	2	2	—
ブルガリヤ	7	49	—	ウルグワイ	1	5	—
カナダ	5	9	5	トルコ	1	2	—
ロシヤ	4	7	12	アフリカ	1	2	—
ブラジル	3	22	5	計	1,163 通	4,511 部	263 部

即ち上表の如く 10, 11, 12 の三ヶ月に海外よりの紹介状は 1163 通の多きに達しその申出に對し Japanujo を 4511 部送つたのである。又日本人の紹介のものに對し 263 部を送つた。つまり兩者をあはせるとこの三ヶ月間に Japanujo 4774 部の希望申出があつたわけである。

猶昨夏ローマでの萬國大會に對しては 2000 部を發送した。7, 8, 9 の 3ヶ月には海外よりの申込に對し 2553 部を送つてゐる。かくて初版一萬部は全く品切となり目下再版二萬部印刷中である。之は一月下旬に印刷完了の豫定で申込をうけて猶未發送の分に對しておく豫定である。

目で見た地方エスペラント運動

——それを通じてみた日本エス運動の反省

エスペラント運動の貧困——

久保貞次郎

「最近エスペラント運動はひどく沈滞してゐる。」といふ言葉は私達の合言葉のやうに屢々繰返されてゐることだ。何とかしなければいけない。どうしたらよいか。どうしたらエス運動が活氣を呈してくるか。かうした問題を前にして、色々の對策が全日本エスペラント界の人々の口々にのぼる。殊に國內中央機關である日本エスペラント學會が、この重要な問題の解決のために、あらゆる苦慮をしてゐることは誰しも認めてゐることであらう。

ところで、果して「沈滞」の二字によつて表現されてゐる現状が具體的に、どんな状態であるか。これをハツキリ把握することが、將來の方向の見通し、及びこれに對する對策を考へる唯一の鍵である。

學會特使として、中央と地方會との緊密な聯絡と、地方エスペラント運動の情勢視察、といふ二つの任務を負つて三週間九州地方へ旅した筆者は、當然第二の地方情勢を見て來たところを報告する義務がある。

各地方會から提出された學會への希望要求事項は 71 箇條ある。之については學會事務局からの「特使に托された九州各地方會の希望とそれに対するお答へ」(次號所載)の所で詳しく書いてゐるからそれによつてみられたい。

従つて私は地方情勢の報告記を今ここに提出しようと思ふ。先月の R. O. に掲載されてゐ

る細い活字の旅行記の中にも多少印象的記述をしてゐる。あの記事を読んで、直接或は間接に私にその感想を告げて下さつた方は僅か二人しか居ないのであるが、それ等の人々はあの記事から全體的に地方エス運動の雰囲気把握してをられた。私が見て来て受けた印象と同じ印象をあの記事から受けとつてゐる。これは非常に嬉しい事實である。あの記事は單なる現象の羅列に過ぎない。その文字の間からにじみ出してゐる全體の傾向が私の印象と一致してゐるといふことは、この記事を書く上に元氣を與へて呉れるものだ。

私はこの報告を忠實に眞實を傳へたいといふ一念で書かうとしてゐる。誇張や歪曲は避けねばならない。それがため却つて、現場の九州の同志の不満を買はぬとも限らない。しかし私達は出来るだけ事實を正確に見なければならぬ。過大視して喜ぶことは慎まねばならぬ。とは云へ勿論この報告は幾多の獨斷、誤謬を含んでをる個處もあるであらう。そのやうな點に氣付かれた讀者が、もしも示教の勞をとつて下さるなら、仕合せと思ふ。

* * * *

1. 私の廻つて來たところは、九州の 14 都市、19 地方會及び廣島（廣島エス會及び呉エス會）である。

1934 年度の學會年鑑による地方會の數は、

關 東 地 方	33	北 陸 地 方	9
近 畿 地 方	33	東 北 地 方	7
◎九 州	20	中 國、四 國	7
中 部 地 方	14	朝 鮮、臺 灣	7
北 海 道	10	計	140

（勿論この數字は 34 年に報告された、當時存在した地方會である。しかし、その後消失してをるものや、又新しく發生してをるものも考へられる。しかし以上は大體の傾向を知るに便利であらう。）

次に學會懇談會出席者數の表は前號に書いた通り、合計、九州 136 名。廣島 18 名である。

エスペラント運動の活潑性をみるには地方會の同志の量と質とをみる可きであらう。その量の點に就いては、前號のあの數字が物語つてゐるやうに、「沈滞」と云はざるを得ない。例へば筆頭は長崎の 25 人であるが、同市は人口 20 萬餘の都市で、醫大、高商等が存在し、福岡につぐ文化的水準線の高い町である。曾てはザメンホフ祭をやれば 50~60 人は集つたと聞いたが、最近は墮勢で動いてゐる感ありとの言を土地の同志からきいた。九州全體 14 都市 19 の地方會をかけ廻つて、會つた同志の合計數と、東京へ歸つてその前で旅行報告をした東京エス倶樂部のザ祭出席者數 138 名との、ほぼ同數であることは、吾々をして何を考へしめるか。

地方會の不活潑。かうした概括的批評を取除く譯にはゆかぬであらう。

2. 私は現れては瞬く間に去つて了ふ風のやうな訪問を續けたのであるが、出來得るかぎり、その土地での講習會の有無を質ねた。その肯定的答へは、僅かに二三に過なかつた。（長崎醫大、熊本、宇土等）この事實に疑問を持たれる人々は R. O. の内地報導を開いてみよ。昨年の 7 月頃から 12 月にかけて、全くといつてよい位講習會の報導がない事實を發見するであらう。

學會出版部の講習用書の賣行きも、全國的に新講習の驚く可き不活潑さを告げてゐるやである。單に九州一地方だけの特殊現象では絕對にない。

講習會が行はれないといふことは、兎に角新しいエスペランチストを作る運動が沈滞してゐるといふことを意味する。勿論一人の同志が一人の友人を捕へて、教へ込むといふことも想像されるが、之は一般的でない。

(私はここに何故講習が旺盛に行はれないかの理由をあまり述べようとしない。これを徹底的に述べると、現在の社會狀勢がエスペラント運動に *malfavora* であることを説明することになる。しかしこの困難な客觀狀勢に就いては、讀者諸君の既によく了解してをるところである。)

曾ては(大正 12~13 年から昭和 4~5 年まで)講習會をやれば 60 人 100 人と集つたといふ(久留米、勇氏談)ことは決して夢でもなく正真正銘の過去の事實であつた。小倉、戸畑、八幡、福岡、長崎、久留米、大牟田、熊本等々、過ぎしエスペラント運動史を緋けば、曾ては、一度び講習のピラをはつて集めれば多數の聴講生を得たといふ華々しい頁をくるであらう。それにひきかへて現在はピラ位では人は仲々集らず、友人から友人へ集め廻る、又は學校内で同志を募る、それも極く少數、確實に残る人をといふ方針。その講習も今は杜絶え勝ちといふ有様。現在の同志は如何に困難な道を歩んでゐることか。

3. 例 會

講習會を開催しないで地方會はどんな活動をしてゐるか。例會乃至月一回なり又は時々同志歓迎、送別の會等である。ここで私は思ひ出す、川原次吉郎氏が歐洲から歸つて來た當時次のやうな話しをした。『歐洲のあるエス會の例會に顔を出して、そこの有名な同志と話しをした。エスペラント運動が何故モット進展しないのか。といふ問ひに對し、彼氏曰く「我々はエス運動の前進も希望しないことはないが仲々困難である。吾々は現在かうして、多くの人々が集つて、エス語のお蔭で、親しく語り合ふことが出来るではないかこの雰圍氣は實に楽しいものだ。之で充分ではなからうか。』と。歐洲のかうした人物の存在は何等不思議ではないが、興味ある事實である。この消極的な非發展的な態度は吾々は決して學ぶ必要がない。然し乍ら卒直に省みて、日本の現在の地方會(東京をも勿論含む)の狀勢が少しこの雰圍氣に類似してはをりはしなからうか。勿論一部には頗る活潑なところもあるが。前述した私の旅行記を讀まれた某氏が私に洩らされた感想に「あの記事を讀んで、全體として地方會が嘗ては相當華かにやつてゐたが、今では細々と煙をたててゐるといつた印象を受ける」と。二三の活潑な會を除けば遺憾乍らこの印象にある程度まで賛成せざるを得ない。

例會を全然催してをらない地方會、最近半年なり一二年なり定期の例會を持たない地方會が 19 の中 10 も算してゐたことは決して喜ばしい報告ではない。特使訪問を機會として、新しく例會を始めようと心に決心された同志の方々が、困難の中にもその方向の道を打開してゆかれんことを期待してやまない。

4. 技術的進歩

淺學の私がかうした點に就いて批判する能力はないのであるが、地方會が段々歴史を重ねて行く程、優秀な同志を持つやうになる。先づエス語でしゃべる點では、各地で優れた *parolanto* に會つたことは、祝福す可き事實である。Skribado, Esperantologio 或はエスペラントの歴史等に関する理解等、一々具體的に調査したのでない故、ハッキリしたことは云へない。しかし段々各地の同志の實方が向上してゆくといふことは期待してよいことであらう。

5. 地方會機關誌

旅行中又は其後で寄贈を受けた *Organo* は次の如くである。

La Vojo 熊本エス會 N-ro 5. Semanto 宮崎エス會 Vol. IV. N-ro 6 (N-ro 33)

Eê Guto 飯塚エス會 N-ro 8. 星影 廣島エス會 Vol. N-ro 5 (N-ro 10)

私はここで地方會機關誌を批評しようとは思はない。又之を大いに獎勵するといふ意志もない。そして Organo の役割については周知のことと思ふ。ただ機關誌を出してをる地方會が、一應活潑さを示してゐることは否定出来ぬであらう。但しこの逆は必ずしも眞ならずである。

6. 大牟田エス會、國際兒童作品展覽會

「旅行記」の 7 頁—8 頁で僅か記してをる通り、これは實に「沈滞」の多くのエス會の中にあつて、素晴らしいハツラツさだ。一地方會でこれだけの仕事を成し遂げたといふ事實は正に特筆大書すべきものであり、その方向も正しいものである。恐らく日本の教育界にとつても未曾有の快事として記録すべきものである。エスペラント語の實用性を世間に認めさせる手段としても、最も堂々たる方法の一つであらう。私はこの成功を大牟田エス會が詳細に學會へ報じ、學會が之を徹底的に全國に知らせることに義務を感じる。再び同會の御報告を促したい。

地方エスペラント會の特徴

ここで私の「地方エスペラント會」とは東京、大阪、京都等の大都市に對して用ゐた語である。大都市のエス會と地方のエス會とを比較してみると矢張り相異があることを發見する。

(1) その土地の gvidanto の個人的力によつて、地方會の消長が云々される。これは人口少く、同志の數の少ない地方會としては當然である。東京あたりでは今日は最早や、假令へ非常に熱心な同志が數名他の地へ轉じて、その爲めに運動が目立つて衰へるなどといふことは考へられない。ところが九州到るところで、上記のことを聞いた。(最近では長崎の淺田博士、戸畑ノ溝口氏、人吉の勝枝氏、飯塚市、行橋等に) 従つてその土地の會長たる可き人に人を得ると活潑になる。今度の旅行で氣のついたことに、私の訪問した地方會の會長にお醫者さんの多いことである。(長崎、大牟田、熊本、宮崎、別府、廣島) そして會の人々はこの事實を非常に喜んでゐる。このことは這般の消息の裏書をしてゐる。従つて熱心な同志のゐる時は目醒しい活動を續けてゐても、その人がその地を去ると火が消えたやうになる。その盛衰が激しい。

(2) 熱意及び技術的な點に於いて同じ grupo の中で差が大きい。といふのは要するに人が少ないからである。一部の人々は堂々とエス語で話すが、一方では殆ど之を理解しない人々が參加してゐる。(東京エス俱樂部の例會あたりでは出席する人々はややその質が平均されてゐる。) これは當然の結果であつて、己むを得ないことであるが、會を進めてゆくのに困難が伴ふ。

(3) 地方では文化運動に興味をもつて、之に参加してくる人々が如何に少ないことよ。従つて例會に出席する人の顔ぶれが、固定化し易い。一人の同志が離れてゆけば、それは大きな打撃になる。如何にしたら同志を増し、之をエス會に出席せしめるかが、地方會幹部の最大の關心事である。従つて中央學會への關心も、それに應じたもので、全國的組織などには仲々注意が向かない。例會の出席者數に就いて例へば宮崎(人口 6 萬餘)のエス會、週一回の例會の出席者は 7-8 人。最大限に集めても 15-16 人。この程度が一般地方エス會の現状であらう。ザ祭にハガキ一枚出したただけで 100 人以上も集り、會場の狹隘をかこつ東京の同志は眼を地方に轉じてみなければならない。東京の同志が温室育ちであることを自覺しなければならない。

文化運動に参加する人の少ない證據に九州でエス運動に携つてゐる人で、ローマ字運動にも盡力してゐる人が頗る多い。(136 人の中明瞭にローマジストと稱する人、各地方會に亘つて 13 名あつた。)

日本の地方都市は封建的遺制を多分に含んで、進歩的な文化運動を受け入れるのに偏狭である。地方の同志はこの外部的壓力にも耐へて、前進を續けてゐるのである。少數ではあるが實に熱心にエスペラントを宣傳し、鼓吹し、啓蒙してをる人々が存在することを發見して、感激せざるを得なかつた。このことは九州ばかりでなく他の地方でも同じ例を發見する。一例。大牟田の西原武宣氏は名刺の肩書の所にエスペランティストとゴヂツクで刷り込んで、何處へ行つても之を出すさうだ。20人餘の知人友人を説いて、結局三人しか賛成を得なかつたが、この三人にエス語を教授した、福岡縣の田中顯道氏のした努力。四里離れた大分市へ出かけて相手の家へ四週間泊り込みで、毎日教授。後自分の寺へ招待して更に二週間つめ込んで、合計6週間の教授。これが現在同氏唯一の *kunstudanto* の由。一一記述したら限りない程熱心な同志の物語を續けねばならぬであらう。

婦人エスペランティストの數

Esp-intino が男子に比べて、ひどく少ないことは日本的なものである。封建的束縛の中に婦人を閉ぢ込めてをく日本の家族制度や、あらゆる殘滓制は、婦人の知的能力を向上させることを阻害してゐる。それと同時に婦人の社交性を阻止してゐる。日本に婦人のエスペランティストが少ないのは當然すぎる程當然である。廣島を加へた 15 回の會合出席者 154 人中僅か 13 人。8% 強である。これは決して日本の名譽ではない。

結 語

私は實際視て來た九州のエス運動の現況を傳へる積りで書いた、が何故さうした「沈滞」の状態にをかれてゐるかの原因に就いては、説き及ばなかつた。然しこれは既に觸れたやうに、現在のやうな、反平和的、反國際的な時勢をよく解剖理解してみれば自明のことである。

そこで私は此の報告記の結末へと急がうと思ふ。九州を訪れて、各地に、嘗ては homaranismo の理想に燃えて、活動又活動を續けた同志が矛をおさめて休息の貌でをられるのを發見した。そして新しい同志も大多數は強烈な熱意を持つて前進しようとしてゐる前衛隊ではないやうである。周圍の狀況から自分の學び始めた言語の學習を續けてゆくといふ程度ではなからうか。(勿論一部には熱心な前進主義的活動家もをるのではあるが、少數である。)さて、この現象は九州だけのことを云つてゐるのだ、などとバリサイ人的に考へ去らうとする、他の地方會殊に大都市の人々に對しては、“Mutato nomine de te fabula narratur!” (名を換へて云へばお前のことを云つてゐるのだ!) の句が、投げつけられねばならぬだらう。實際、この「沈滞」なる語は、九州のみならず、日本全體、及び世界の多くの國々のエスペラント運動全體に根本的に妥當する眞實さをもつてゐる。

九州を旅してゐる時は勿論、歸京して後も、今度の旅で得た第一番に擧げられる感想はときかれたら、躊躇なく答へる。エスペラント運動の貧困さである。その未熟性である。エス運動は未だ未だ少年期にやつと足を踏み入れた位だ。青年になるのさえはるかに道遠しだ。そして同時に私達はエスペラント運動の現段階を過大視してはならないといふことである。決して過大視するな。といふ戒めが、自分の頭にハツキリと、しかも具體的に朗らかになつて來た。地方の同志にしても、又中央にをる吾々でさへも、ややもすると、この運動をひいき目に見たがる傾向がある。例へば今度の旅で「財政の件に就いては、會員の懷をあてにしてみたのではとても大したことが出來ぬから、出せるところ、例へば、財閥なり文部省から貰つてくること」といふ希望案があつたが、この文部省から補助金を受けるなどは、現在の狀態では逆立ちになつても、不可能なことであらう。それ程エスペラント運動はまだ小さなものである。世の中の

存在として充分認められてゐないのである。(無論、徐々にこうした方面へ運動をするのも全然無効のことではないが、實現されるのは餘程先のことであることを認識せねばならぬ。)

それと同時にエスペランチストは、餘りにもその中央日本エスペラント學會の力を過大に見積つてはならないといふことである。何でも學會にたのみ込めば、學會が之をなし遂げられると考へたり、學會は何をグズグズしてゐるのだ。もつとドシドシ聲を大にして宣傳をやつたらよいではないかと齒がゆくあせる人々もあるであらう。然し會員は僅か 1000 餘名永代基金一萬數千圓、建物、土地、在庫品を合計しても約五六萬圓しかならぬ財産である。ここで宣傳に働いてをる人は僅か三人しかをらぬ。講師を派遣せよと云つても直ちにこれに應ずる費用に一苦勞する現状である。従つてこの學會の實力をよく認識して力を併せて活動を續けてゆくことは望しいが、過大視することは、結局、直にエスペラント運動を促進せしめる方法でない。

エスペラント生誕以來來年で 50 年、日本に移入されてから 30 年。この間徐々にその力を蓄積して來てはゐるが、その目的の彼岸ははるかあなたである。重ねて云ふ現状「エス運動の貧困さ」を深く、正確に認識しなければならぬ。例へば文獻にしてみても、學會出版部が創設されてから 12 年。その間蓄積された文獻はあらゆる種類をとりまぜて 63 種に過ぎない。學會以外の所で出版されたものでも、現在手にはいるものは 100 種を越へないであらう。これを毎年萬を以つて計へる日本の出版圖書數と比べて(昭和 8 年 24,025 (普通出版物))如何に微々たるものであるか。更にその發行部數にしても、昨年 1335 年度學會出版部中辭書、獨習書を除いて最高の賣上げを示した圖書が 508 部最低が 19 部である點から考へても如何にその讀者數の小であるかがわかる。

文獻の量ばかりでなく質にしても、「和エス」の如き世界に誇るエスペラント語の研究は別として、文學、及びイデオロギーの諸分野に於いて世界的水準はおろか、日本の水準に達してゐる研究がどれ程なされてゐるだらうか。それに對しては私達は赤面せざるを得ない。

エスペランチストの少ないことは既に述べたが、質的にも同様に、現在中等學校にエスペラント語が必修科として導入されたとしても、その教師として充分の資格をもつた人々を、エスペラント陣營内から果してどれだけ供給することが出來やうか。全國には一萬餘の中等學校が散在してゐるのである。

私はエスペラント運動の貧困さに就いて餘りにも強調し過ぎて、讀者の不満を買つたかも知れない。然し乍ら、この貧困さは何も決定的なものではなく、單なる一階梯に過ぎないことを讀者諸君は最初から見抜いてをることであらう。そして私の上の論述を微笑をもつて寛大に看過してくれたことと思ふ。即ち私達のエスペラント運動が未熟であればある程、私達は奮起して、この文化運動のために一層の力をそそがねばならない。益々その決意を深くするだけである。各々その分に應じた持場に據つて、新しい同志の獲得に、お互の技術の向上に、立派な文獻の蓄積に邁進するであらう。ローマは一朝にしてならず。人類文化の進歩は全くただ蓄積にのみある。ここでホイットマンの言葉「恐らく最上なものは常に蓄積的である。」は私達に一層の元氣を與へて呉れるであらう。

Fonetikaj Signoj de Z. kaj Rusa Lingvo

KAWASAKI-N.

R. O., jan. 1936 の岡本の記事をみて、つぎのことを補つてみたい. p. 23 にでた Z. のやりかたわ外國語を臨時にその發音を示すのが目的であつて、そんな形でいつも *propraj nomoj* を Esp. 文中に使おうとするのでもなく、いわんや *pure esperantaj vortoj* 化するためのものではない. ロシア語だけ再録する.

лѣдъ l(j)od, смерть sm(j)ert(j), былъ b(u)il(u)

ロシア語にわ硬母音と軟母音, 硬子音と軟子音とある. 例: 硬母音 a (萬國發音記號で示せば [a], [a]) に對して軟母音 я [ja] がある. 硬子音 т [t] に對して軟子音 ть [t'] がある. すなわち軟母音とわ [j] が前についたものである. 軟子音とゆうのわ子音の口蓋化をゆうので, 「中舌を硬口蓋へ押しつけて出す音」, 井桁「露語文法詳説」である. だから [tj] でわない, [tj] わ [t] を發音してから [j] を發音するのだ. [t'] なる軟子音すなわち口蓋化された t わ t 自身がそれを發音するとき, 舌が普通の [t] (ロシア語でゆう硬子音すなわち語尾なら舊正字法の ть, 新正字法の т, またわ та など硬母音の前) の位置のみならずさらに硬口蓋にまでひろく *tuŝi* するのである. 軟母音の前にくる子音わ軟子音になる. ロシア文字の e わ [je] だが, te となると [t'e] と發音する.

Z. のやりかたをみる. 軟子音 ть すなわち [t'] を示すのに t(j) とし, 硬子音 дъ わ d としっていて d(u) としていないのわ, 硬子音すなわち [d] なのだから (u) をそえる必要がないから, 當然である. т わ硬音符で, д が [d] であつて [d'] でない, すなわち軟子音でなくて硬子音であることを示すだけの役目をするので, それ自身わなんら發音を持つていない. 昔わ [o] とゆう發音を持つていたが, 近代でわ全く無音である. だから 1917 年以來新正字法が行われていて, т わ書かなくなつた. それでわ l(u) わどうかとゆうと, ロシア語での ъ わ西ヨーロッパの l と違ふ, すなわちロシア語の ъ わ u の發音位置で l を發音し, 西ヨーロッパの l わ i の發音位置で l を發音する. だから l と書けば, 西ヨーロッパ人わ自分らの l で發音する, それを聞くとロシア人わ [l'] すなわち軟子音の ъь のごとく感ずる. で西ヨーロッパの l でなくてこれわロシア語の硬子音の ъ であることを示すため l(u) としたのであらう. ロシア語でわ西ヨーロッパ語をロシア文字で *transskribi* してロシア語文中で使つているときにわ Вольтер (=Voltaire) のごとくかならず西ヨーロッパの l を ъь と軟子音にしてあらわしている. *Jurnal* のごとき語わフランス語からロシア語にはいりこんでいまわまつたくロシア語化してしまつていたので журнал となつていて, 最後の ъ わロシア語式に硬子音の ъ, すなわち Z. 式にわ l(u) の發音をするのだが, フランスの新聞 *Petit Journal* を *transskribi* する場合わ Пти Журналь と ъ をつけている. これわ外國語であるからだ. Luther わ Лютер [l'u-]. つぎに b(u)i. 硬母音わ ы ([i]) ウイのごとき中間母音, u に近き舌の發音位置で唇わ i の開きかたで發音する) 軟母音わ и [i]. и の前の子音わ軟子音になる. ы わローマ字にわこれに當る字なし i, ĭ, ŷ, y などであらわしている. で Z. わ Esp. にも ы に當る字がないから b(u)i とした. 硬母音わ o, 軟母音わ e だ. e の大部分わそれに *akcento* がくると [jo] となり, 初等教科書, 辭書でわ ě とあらわす. ただし [jo] わ母音だけのときで, 前に子音がくると軟子音になる, 例えば ъө わ [ljo] とならずに [l'jo] となる. だから Z. わ l(j)o とした. m(j)e もまたこれに同じ

で、英語などの music の [mju] でなく m を發音するとき [j] の舌のかつこうでするのゝである。Ke わ Ka より發音位置が前に及ぶ。ч (č) わいつも軟子音, ц (c), ш (š), ж (j) わいつも硬子音。語尾わその後に有聲音がこないかぎり無聲音になる, лед わ [l'ot]. (4 jan. 1936).

動詞 FARI の用法

(I)

K. OSSAKA.

§ 1. Enkonduko.

En kelkaj naciaj lingvoj oni havas por la Esperanta verbo „fari“ du vortojn (ekz japane: *suru* kaj *cukuru*; angle; *to do* kaj *to make*), dum en aliaj oni havas nur unu, kiel en Esperanto (ekz. france: *faire*). Kaj ĉar tiuj nacilingvaj verboj kun diferencigitaj nuancoj estas tre ne klare difineblaj kaj estas uzataj ordinare laŭ nacia idiotismo, en multaj okazoj ni estas konfuzitaj, ne sciante, kiun el ili ni devas elekti. Ekzemple ni japanoj mirus, kial la angloj uzas jen *to do*, jen *to make*, en la sekvantaj ekzemploj, kiam ni uzas tute egale ĉiam *suru*:

To **do** damage=Gai o **suru**,

To **make** an error=Maĉigai o **suru**,

To **do** wrong=Ajamaĉi o **suru**,

To **make** an omission=Teoĉi o **suru**.

En Esperanto ni povas tute senĝene ĉiam diri, uzante nur „fari“:

Fari difekton, **Frai** eraron, **Fari** malpravaĵon. **Fari** preterlason.

Cetere en la okazoj, kiam nenio dubo prezentiĝas, kun aŭ sen helpo de la kunteksto, unu sola verbo tute bone servus por tiu aŭ alia signifo; ekz.:

Ĉion li **faris**=Subete kare ga *jatta* no desu; He *did* everything.

Tiujn pupojn li mem **faris**=Kono ningjo ŭa kare ga *cukutta* nodesu; he has *made* those dolls.

Ni do vidas, ke estas tre saĝe de la flanko de D-ro Zamenhof, ke li elektis por lingvo internacia unu solan formon „fari“, tiel evitante konfuziĝon ĉe la uzantoj, tiel same, kiel li elektis nur unu verbon „povi“ por la ekzemple gremanaj „können“ kaj „dürfen“ kies uzadon aliaj nacioj povus lerni nur kun grandega malfacileco.

§ 2. **Fari** (iun objekton el iu materialo)=produkti, fabriki, konstrui, k. s. (何で何を)作る、造る。

Lignaĵisto **faras** (fabrikas) tablojn, seĝojn kaj aliajn lignajn objektojn. (F 67/10)

指物師は机椅子等木製品を作る。

La botisto **faras** botojn kaj ŝuojn. 靴屋は長靴や短靴を作る (F 77/-8; *ankaŭ vidu*: F 75/1-3; Rn 33/15; FK 64/-6; F III 149/19; F III 153/4).

Kaj **faru** la tunikon de la efodo tutan el blua teksaĵo. (Er 28-31; *ank. vd*: FK 69/25). 僧衣の下着は總青裂地仕立てで作れ。

La bona Dio, mi diris al mi, estas riĉa homo, kaj li povas ja **fari** (=ŝpini) orajn adenojn el groŝa ŝnuro. (Rt 64/19) 神様はお金持ちやと私は考へたのですだ、ピタ錢の(安い) 繩から黄金の糸をつむぎ出すことだつて出来なさるだ。

Kaj Dio **faris** (=kreis) la du grandajn lumajojn. (Gn 1-16; *ankaŭ vd*: SS 8-26: **fari** la teron). 神は二つの光り物(日月)を造つた。

Mi **faros** (=starigos, konstruos) tie altaron al Dio, kiu atentis nin en la tago de nia mizero. (Gn 35-3) 吾等が非常時に我等を愛顧しませし神に祭壇を築いて獻げん。

Komparu: Kaj li **konstruis** tie altaron. (Gn 35-7)

Unu fojon iel okazis, ke amuzante infanojn, mi **faris** (=konstruis) dometojn el kartoĵoj. (Rz 44/9) たまたまこんな事があつたのですが、子供の機嫌取りにトランプで家をこしらへてやつてゐたのです。

Ili **faris** ŝipeton el gazeta papero. (FI 99/-9) 新聞紙で船を作つた。

Tiuj ĉi nestoj estas **farataj** tute el tero. (FK 222/-9) 此の巢は土だけで出来てゐる。

Ekster tio el la diritaj vortoj ni povas **fari** (=produkti, formi) aliajn vortojn. (F 67/10) 其の他上記の語より他の語を作り得。

Sur la akvalpelita mara herbo kuŝis dek unu blankaj plumoj de cignoj; ŝi kolektis ilin kaj **faris** el ili bukedon. (FI 105/-2) 打ち寄せられた海草の上に白鳥の白い羽根が十一枚落ちてゐた。彼女はそれを拾つて束をこさへた。

Poste **faru fajron** kaj boligu la akvon. (F III 137/1) それから火を起して湯を沸しなさい。

Ŝi **faris** en la saketo malgrandan **truon**. (FI 5/-6) 袋に孔を明けた。

Lia prudento turniĝas. Mi pensas, ke li **faras** (=komponas, verkas) **versojn**.

奴氣が變になつてゐるのだ。詩でも作つとるのぢやらう。 (Rt 22/11)

Mi volus ja demandi, kial mia patro min **faris**? Certe ja ne el amo al mi, kiu ankoraŭ estis fariĝonta ulo. (Rt 14/21) 親父の奴が此のおれをこしらへた譯がききたいものだ。まさかまだ形も出来て居なかつた此のおれに對する愛情からではあるまい。

Tra longa tempo, ĉe ĉiu **farita** (=fosita) **sulko** estis trovata postesigno de la batalo. (BV 6/-7) 長い年月の間打ちかへされる畔の一つ一つに戦の痕跡が讀まれたのである。

Ili volus nur **fari** (=konstrui) **ponton**, kiu povus pace ligi inter si ĉiujn religiojn ekzistantajn. (OV 330/23)

その欲する所は唯現存宗教を互に結合する橋を架するに在る。

Kaj ankaŭ la fajro ricevis freŝan humoron kaj pli hele brilis, disblovita de la **vento**, kiun **faris** (=kaŭzis) la dancado. (BV 59/1) 爐火も亦いきいきとした活氣を帶びダンスで惹き起された風にあほられ一般と朗かに輝いた。

La hundo prenis pecon da kreto kaj **faris** (=desegnis) **krucojn** sur ĉiuj pordoj en la tuta urbo. (FI 5/20) 犬は白墨をくわへて町中の戸と云ふ戸の上に十文字の印をつけた。

La popoloj **faros** en konsento. Unu grandan **rondon** familian.

國民は協同して一大團樂を作るであらう。 (La Espero)

Pro Dio, sinjoroj, pli rapide **faru** (=formu) **rondon** kaj observu pli da ordo. (Rz. 55/8; *ank. vd*: FI 23/10) これさ諸君早く集まつて(圓陣を作つて)もつと秩序を保つて。

Tablo kovrita **faras** (=akirigas al ni) **amikojn**. (P 207) 卓布で械はれた食卓即ちお膳立の出来てゐる卓は友を呼ぶ(友を作る)。

Rimarko 1. „Fari“ kun sia rekta komplemento ofte formas frazeron, kiu esprimas unu ideon. Ekz. „fari truon“ = *trui*; fari rondon = *kolektiĝi en rondo*; fari versojn = *versi*. Pluaj ekzemploj estos montrataj en postaj paragrafoj.

Rimarko 2. Kiam plia precizeco estas postulata, anstataŭ „fari“ ni uzas laŭ la senco aliajn verbojn: *produkti, fabriki, krei, ellabori, konstrui, starigi, formi*, k. s. Ekz.

Li estis la unua, kiu havis sufiĉe da pacienco, por **ellabori** plenan lingvon de la komenco ĝis la fino. (OV 364/6) 彼は相當に忍耐力があつたので一から十迄言語全部を作り上げることの出来た最初の人である。

Bierfabrikanto (BV 65/-6) = bierfaristo.

なぜこんな形か

— Kaŝtano —

KAWASAKI-N.

Kaŝtano を眺めているといろんなことが浮んでくる。まず第1になぜ *-ŝ-* となつてゐるのだろうか？ A. chestnut, Lat. castanea, F. châtaigne, I. castagna, H. castaña だ。G. Kastanie でも *-st-* と發音される。(G. で *st* を *ŝt* とするのわ Staat のごとく語の始めか, verstehen のごとき G. 系の前置詞がつく場合である。もつとも「外來語系の前置詞の後にも例えば konstatieren のごとき場合にも *-ŝt-* と發音する人がかなりあるが、これわいかん。」と Viëtor, **German Pronunciation** が言つてゐる) それでわ R. か Pol. にあるのでわなからうか？ そうだつた, そうだつた, R. が Kaŝtan (=kaŝtan) なんだ。Pol. わと **Universala Vortaro** を見ると——しめた！ kasztan だ (sz わ ŝ と發音)。これで語源わ解決した。がなぜ R. Pol. の形をとつたのだろうか？なぜ internacia な形すなわち *-st-* にしなかつたのだろうか？ Kaŝtano にすぐ聯想されるのわ poŝto だ。この *-ŝt-* わ前置詞 post と區別するためであることわきわめてあきらかだ。R. でわ poŝta, pol. でわ poczta (cz = ĉ) だが, *-ŝt-* の發音をするものに rumana, litova-slovena, hungara それに面白いことに portugala がある。この port. で *-st-* が *-ŝt-* と發音されることを知つたのわ非常な大喜びである。castanha もカシュタニヤだ。Imposto (租税)——impoŝto (臺輪), pastelito (香錠)——paŝtelo (バステル), pasto (捏粉)——paŝti (牧す) など區別するために *-ŝt-* の形をとつたに相違ないが, こんな *-ŝt-* の發音をする國語があるかどうかを探していたのだからだ。これら 6 の單語にあたるものが port. に *-st-* の形で, そして發音わみんな *-ŝt-* である。pisti (搗く) と *-st-* の形を持つたのわ port. にないらしいが, pistão (ピストン) わある。ところでこゝに問題になるのわ, Z. わ port. を知つてゐてこんな區別をしたのか, それとも單に他の語よりの類推 (例: stato-ŝtato) によつてしたのであろうか？ (註: impoŝto わ Z. の radikoj でない。) Z. がどれだけの言葉を知つてゐたかわ十分我々にも解つてゐない。Literatura Mondo, 1933 jul. にでた Plehn, Iom pri la lingvoscioj de Z. わ Z. に H. の知識のあつたことを考證しているが, port. についてわなんにも言つてない。さらに Enciklopedio de Esp. 中の Z. の手紙に「R. Pol. G. F. のほか 8 の言葉を學んだ。」とあ

るが、8 とわなんであるか書いてない。また同書にわ Z. の父が Esp. の創作に手傳をしたとゆう我々にとつて始めての報導があるが、Z. の父も port. わどうであつたろうか？ Pol. でわ -št- の音がよくある。aresztować (=aresti), kosztować (=kosti), musztarda (=mustardo) など。けれども konstatować (=konstati), misterya (=mistero) など -st- の形もあり、上記の port. のところにだした 8 語にあたるものにわ私わ Grabowski, 「Esp-Pol. 辭典」で pastylka, pastel, pasta, piston と piść (=paŝti で ŝ も sj, ć=cj の發音) を見つけたにすぎぬ。これらの -st- わおそらく -št- の音にわならないのであろう。Moŝto (閣下) わ pol. でわ mość で, mósto (葡萄搾液) わ moszcz となつている。後者わ各國語に同一またわ類似の形があるが、前者わおそらく pol. だけで使われている單語であらう(?)。Filistro (俗物)——filiŝto (フィリスチャ人) の -ŝ- わヘブライ語で pravigi されるとゆう。Kaŝtano なる植物の原産地わ小アジアで、その都會 Castanea (Lat. での名わこれ) にもとづく。Z. の舊約全書および諸國語の古譯中にでてくるのを誤譯のためで、諸國語も Esp. も新しい譯わ正してある。ヘブライにわ元來無い木とか。Revizoro に kaŝtanhara あり。Z. 書中のこの單語の統計わ私の専門でないので知らぬ。「Lat. の形をとれば kastaneo とするのが他の類形語と sistema になる」と Wüster わ言う。Kaŝtano わ 1887 年の Unua Libro にわでてない。が 1889 年にでた Z. の辭書である「R-E 辭典」に載つている。1905 年の Fundamento de Esp. 中にあるから、1894 年初版當時の Universala Vortaro にもあつたに違いない。Kaŝtano に似た語に kastanjeto (カスターネット) があるが、これわ Z. によつて Batalo de l' Vivo (1891 年 La Esperantisto に連載) に始めて使われたらしい (Wüster, Z.-Radikaro)。いまだ neoficiala である。すなわち kaŝtano が載つた「R-E 辭典」に kastanjeto が載つていないから、kaŝtano の -ŝ- わ後者に氣兼ねしたためでないことわあきらかである。しかも kastanjeto わスペイン語の castañetas (kastanjetas と發音し、複數形) から來ていて、この品物の形が du duonoj de kaŝtano に似ているから名づけられたとのこと。Pol. でわ kasztelan (=kastelano), port. でわ castello (-ŝ-) だ。-št- の音がかならずしも -st- より美しいわけわないが、kaŝtano なる形を使いつけてしまつている我々にわその -št- の由來がどうあろうと、-št- そのものにまでなつかしきを感じる。

Kalocsay kaj Waringhien :

PLENA GRAMATIKO 紹介

岡本好次

K. Kalocsay kaj G. Waringhien: **PLENA GRAMATIKO DE ESPERANTO Vorto kaj Frazo**, eldonita de Literatura Mondo, Budapeŝto, 23.5×15.5 cm., 372 p. 價 3 圓 50 錢 (送料 15 錢)。

AELA 1935 年度の Lingvoserio の第一回配本として出版されたもの。Literatura Mondo から出版されたものとしては Enciklopedio de Esp. 二卷と共にエス文獻の王座をしめるものであらう。

本書は近來メキメキ賣だした Kalocsay, Waringhien 兩言語委員の共著である。

菊判三百七十頁といふ、老大な文法書である。我々は本書を手にしてまづ此の老大な著述を完成した兩氏の *energio* に絶大な讃辭を呈したい。且又本書のみならず大作力作を矢つぎばやに發行しつつある *Literatura Mondo* の經營法の巧みさに感嘆の叫をあげるものである。

扱本書は著者達がその序文の中で “*Ni ne estus povintaj fari tiun verkon sen la jam tre vasta laboro de niaj antaŭantoj...*” とのべてゐる如く既に之迄エスペラント文法上の諸問題について多數の先覺が發表した種々の研究著作を綜合して新しく書きおろした集大成とも云ふことができるものである。尤も本書には兩著者獨自の見解も相當加味されてゐるし之迄の研究も兩氏の意見の篩によつてふるひわけられて本書中にをりこまれてゐることは見逃してはならない。

しかしながら之迄まだ十分手のつけられてゐない部分に對しても新しい分野をひらいた部分もあつてとにかく本書は興味の深いものである。

扱本書を手にした人々はまづ第一にこんな老大な文法書がエスペラントにも必要であるだらうかと疑念を抱かれることであらう。

中にはエスペラントの文法は十六ヶ條で十分だと云ふ人もあらう。こんな大文法書は邪魔物だといふ人もあらう。又一方にはこれこそエスペラント語の發展を意味するのだとよろこぶ人もあらう。

ではどちらが正しいか。

文法書の批判にあたつてはまづその著作の目的と著述の態度といふ兩方面から觀察をせなければならぬと思ふ。

即ちまづ文法書といつてもその使用の目的に従つて著作の目的がきまり又それに従つてその編纂の態度もちがつてくるわけである。

例へば學校の教科用に用ひる文法書は教科用として好都合な様に編纂すべきで文法家によつて意見のまちまちな様な特殊の文法現象は省略して之にはふれない様にする。又大多數の人が用ひないで唯一二の著作家が用ひる様な特殊な文法現象はすべて誤又は *nerekomendinda* なものとして取扱ふのである。

之に反してあらゆる言語活動を研究の對象としあらゆる文法現象について説明することを目的とする高等程度の文法書はあるがままの文法現象をそのまま取入れて何とか文法學的の説明を加へるべきであつて之を省略する様なことはゆるされない。

前者をかりに規範文法とよべば後者は叙述文法とよべよう。

この外に古い時代の文法現象を研究した文法もあれば時代の推移による文法現象の變遷を主として取扱ふ文法もある。こういつたものは歴史文法とでもよぶべきであらう。

又數ヶ國語の文法現象を比較研究する比較文法といふものも存在する。

之等はすべて廣い意味において文法編纂の目的に従つて分類されるものといつてよいと思ふ。

之に對して著者の著述の態度も文法書の内容をかへるものである。

例へば著者が從來の文法家の用ひた術語や分類をそのまま踏襲して之迄まだ説明されてゐない種々の文法現象を解明することに力をそそぐものもあれば從來の文法家の説明は不十分だとして新しい觀點にたつて新しい文法理論をうちたてようとする人もある。

かく文法書はその著作の目的と著述の態度で多種多様のものとなるといふ事實をわすれてはならないと思ふ。

これは一般の言語についていつたのであるがエスペラント語に於ても同様のことが云へると思ふ。こう考へてみればエスペラント界にもいろんな目的のためにかかれた多種多様の文法書がなければならぬことになる。

既に各國には自國人の爲の教科用のエス文法書が澤山出版されてゐる。國際的のものでは Stamatiadis や Fruictier (Grenkamp 増補) の文法書がある。併し之等はまだ教科用文法の域を十分脱してをらぬ。

而して高等程度のエスペラント研究家のための文法書が今日迄皆無であつたといつてよい。尤も斷片的な研究としては相當詳しい研究が發表されてはゐるが之を綜合して一つの體系にまとめあげたものがない。

而してここに紹介する Kalocsay, Waringhien 共著の Plena Gramatiko はこういつた高等研究用文法書として相當我々の要求を満足させてくれるものであると思ふ。

即ちこういつた意味に於て評者は本書の出現がエスペラント界のためよろこぶべき事象であると斷言してはばからないものである。

尤も本書は教科用文法として編纂されたものではなく主としてエスペラント語の今日あるがままの姿における文法現象を研究對象として大體之迄の文法理論の發展をあとづけ幾分新しい理論と體系を附加したものであつてこれは高等研究用の文法書とみるべきであろう。

併しすべて文法書はその文法書のもつ本來の目的に適合する様利用されねばならぬ。

本書の如き高等研究用の文法書を初學者の教科用文法書として用ふるが如きは雞をさくに牛刀を用ひるの類で有害無益であるこの事は忘れてはならぬことである。本書の出現を心配する人々は本書がそういつた方面に用ひられることをおそれてであらう。

扱本書は上述の如くエス界における劃期的の著述であるので簡単にその内容を批判することをさげ本誌上で次號より數回に亘つて本書の内容を紹介且批判することにしたい。

而してここに概括して評するならば本書のある部分には我々が既に考へてゐたことであるがまだ今迄ハッキリした形で示されてゐなかつたことをハッキリと明示してくれたといふ愉快的記述もある。

又本書の他の部分には態々六ヶ敷く分類したりことさら異をたてるために長々しくなつた記述もないではない。

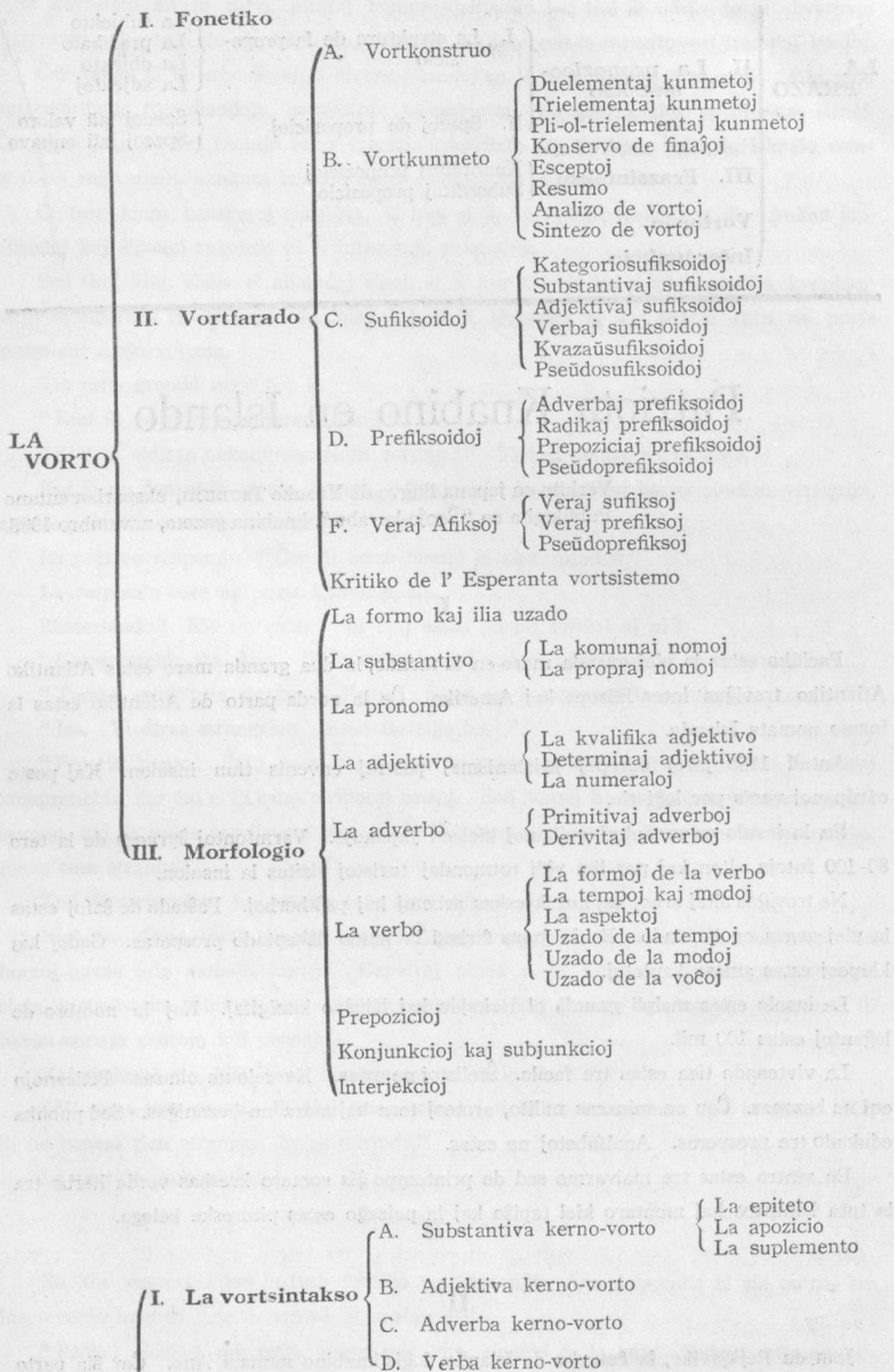
しかし大體において本書は先人の研究したあとをたどつて之を綜合し又敷衍したものであるから大綱はまづ妥當な説明であり、又我々の肯定しうるものであるといつてよいと思ふ。

この意味に於てふかくエス語文法を究明しようとする人々は勿論のことエス語の中等乃至高等講習を指導される人々にとつて本書は相當役立つものである。

本書の各項目についての批評は次號にまわすこととして、ここには本書全體の内容の skizo を次にのせることにした。

ここに本書全體の skizo を示したのは本書には目次が示されてをらぬからである。すべて書物といふものはその目次を見ただけで大體その著作の様式や著者の態度が一目瞭然とわかるものである。特に文法書の如く體系的の書物においてそうである。しかるに本書には索引があるが目次が附してない。このことは本書を手にした誰もがすぐ氣づく大きな缺點であろう。

それで本誌における數回に亘る本書の内容紹介をよまれる人々の便宜を計り次に本書の内容の一覽表をかかげることにした。



LA FRAZO	II. La propozico- sintakso	I. La strukturo de la propo- zicio	{ La subjekto La predikato La objekto La adjektoj
		II. Specoj de propozicioj	{ Specoj laŭ valoro Specoj laŭ enhavo
	III. Frazsintakso	{ Kunorditaj propozicioj Suborditaj propozicioj	
	Vortordo		
	Interpunkcio		

Patriota Knabino en Islando

Verkita en japana lingvo de Yusuke TSURUMI, eksparlamentano
Publikigita en "Ŝooĵo-kurabu", knabina gazeto, novembro 1935.

I

Pacifiko estas la plej granda maro en la mondo, la dua granda maro estas Atlantiko. Atlantiko troviĝas inter Eŭropo kaj Ameriko. Ĉe la norda parto de Atlantiko estas la insulo nomata Islando.

Antaŭ 1150 jaroj eŭropaj kristanismaj pastroj envenis tiun insulon. Kaj poste eŭropanoj venis por loĝi tie.

En la insulo estas multaj vulkanoj kiel en Japanujo. Varmfontoj ŝprucas de la tero 80-100 futojn alten kaj por ilin vidi tutmondaj turistoj vizitas la insulon.

Ne troviĝas altaj arboj kaj nur kreskas arbetoj kaj paŝtherboj. Paŝtado de ŝafoj estas la plej grava en la lando. En la maro ĉirkaŭ la lando fiŝkaptado prosperas. Gadoj kaj klupeoj estas amase kaptataj.

La insulo estas malpli granda ol Hokajdo kaj Kiuŝuo kunigitaj. Kaj la nombro de loĝantoj estas 100 mil.

La vivtenado tiea estas tre facila. Ŝtelistoj ne estas. Kverelo ne okazas. Policanojn oni ne bezonas. Ĉar ne minacas milito, armeoj tera kaj mara ne bezoniĝas. Sed publika edukado tre prosperas. Analfabetoj ne estas.

En vintro estas tre malvarme sed de printempo ĝis somero kreskas verda herbo tra la tuta kamparo kaj montaro kiel tapiŝo kaj la pejzaĝo estas pitoreske belega.

II

Jam en Rejkjaviko, la ĉefurbo de Islando, loĝis knabino nomata Ano. Ĉar ŝia parto

estis kuracisto en la urbo, multaj homoj vizitis ŝin kaj tial ŝi aŭdis de ili diversajn interesajn rakontojn de sia infaneco. Precipe ŝin interesis la rakontoj pri fremdaj landoj.

Ĉar venas al la urbo ŝipoj el diversaj landoj en la tuta mondo, ŝi staradis ĉe la kajo kaj rigardadis fremdlandajn pasaĝerojn elŝipiĝantaj. La plej multo el ili estas danoj. Ĉar inter Islando kaj Danujo estas speciala interrilato pro tio ke la reĝo de Islando estas la dana reĝo mem, kankam Islando estas sendependa regno.

Ĉiufoje kiam pasaĝeroj elŝipiĝas, ŝi iras al ili kaj interparolis kun ili. Ankaŭ ŝip-oficistoj kaj ŝipanoj rakontis al ŝi interesajn rakontojn.

Sed tiuj, kiuj eliĝis el alilandaj ŝipoj, al ŝi nur ridetis kaj nenion parolis, kvankam al ili ŝi alparolis tre fervore. Malofte iuj el ili alparolis al ŝi, sed ŝi tute ne povis kompreni iliajn vortojn.

Tio estis granda miro por ŝi.

“Kial ili ne povas kompreni min?”

“Kial ili eldiras nekompreneblajn vortojn?” Tiel ŝi pensis en la koro.

Kaj ŝi do demandis al sia patrino, “Panjo, kial homoj, kiuj havas similan vizaĝojn, eldiras nekompreneblajn vortojn?”

La patrino respondis, “Ĉar ili estas homoj el eksterlando?”

La respondo tute ne povis konvinki ŝin.

Eksterlando? Kio tio estas? Ili ĉiuj estas homoj similaj al ni?

“Kompreneble jes, Ano. Ili ja estas homoj sed ili apartenas al aliaj landoj.”

“Tamen estas tute strange! Panjo! Ŝafoj ne komprenas la parolon de bovoj?”

“Jes. Vi diras strangaĵon. Kion tio signifas?”

“Pro tio, panjo! Ŝafo, bovo kaj ĉevalo ne povas kompreni unu la alian. Tio estas komprenebla, ĉar ĉiu el ili estas alispecaj bestoj. Sed homoj havas egalan vizaĝon, egalan korpon, kaj ili paŝas per kruroj starante? Kaj homoj ne povas kompreni sin reciproke. Estas tute strange”.

Tiel ŝi respondis. La patrino tute konfuziĝis.

Kiel Ano diras, estas stranga afero ke homoj ne povas kompreni sin reciproke. La homoj havas tute samajn korojn. Gepatroj amas siajn infanojn, lernantoj respektas siajn instruistojn. Homoj amas belajn objektojn kaj bonajn kondutojn. Unuvorte ili havas samajn sentojn kaj pensojn.

Kaj malgraŭ tio, kial ili ne komprenas sin reciproke?

“Vi estas tute prava. Ili ĉiuj estas homoj kaj ili ne komprenas unu la alian. Kaj ili ne pensas tion stranga. Estas mirinde”

La patrino samopinias.

III

En tiu vespero kiam la tuta familio vespermanĝis, Ano demandis al sia patro, kiu ĵus revenis hejmen post la vizitoj al malsanuloj.

“Paĉjo! Hodiaŭ mi volis interparoli kun ŝipanoj ĉe la kajo. Sed ili estis ekster-

landanoj kaj ni ne povis kompreni unu la alian.

Paĉjo! Kial ni homoj parolas malsamajn lingvojn? Kial ili ne parolas unu saman lingvon?

Se oni instruus ne diversajn lingvojn sed nur unu saman lingvon, ni estas tute feliĉaj, ĉar ni povas kompreni nin reciproke?"

Aŭdinte tion ŝia patro silentis iom da tempo kaj poste li kviete parolis,

"Ano, mia knabineto! Vi bone rimarkis. Tio estas la plej grava afero en la mondo. Ĉar malsamlandaj loĝantoj parolas malsamajn lingvojn, ili ne komprenas sin reciproke kaj tio kaŭzas malpacon, kaj fine militon, — multaj estas vunditaj aŭ mortigitaj.

Kaj tial se ni volas fari la tutan mondon tute paca kiel en Islando, homoj nepre devas uzi unu saman lingvon por kompreni sin reciproke. Sed en ĉiu lando en la lernejoj oni ne instruas lingvon kompreneblan por ĉiuj en la mondo"

"Paĉjo, ĉu ne ekzistas lingvo tutmonde komprenebla?" demandis Ano.

"Jes, tia ekzistas. Sed ĉar ĉiu lando volas altrudi sian patran lingvon al la eksteranoj, tia lingvo tute ne disvastiĝas. Kompreneble neniu volas ĉesi uzi sian patran lingvon kaj komenci uzi alilandan lingvon.

Sed se ĉiuj homoj en la tuta mondo uzus lingvon, kiu apartenas al neniu lando, la afero solviĝus. Ĉu Ano povas kompreni tian malfacilan aferon?"

La patro ridetante diris. Ano kriis ekscitite.

"Jes, jes, paĉjo, mi tute bone komprenas vin! Bonvolu paroli al mi plie!"

"Do mi rakontu al vi. En Polujo vivis okulkuracisto nomata Zamenhof. Li mortis jam antaŭ dekelkaj jaroj. Li pensis tute same kiel vi, kaj li fine elpensis novan lingvon, Esperanton. Esperanto apartenas al neniu lando, ĝi estas tute nova lingvo. Li ĉerpis multajn bonajn punktojn el diversaj lingvoj kaj konstruis tiun novan lingvon. Se ĉiuj homoj en la mondo lernos la lingvon, ili ĉiuj povos tute bone kompreni sin reciproke."

Aŭdinte tion Ano tre ĝojis kaj kriis.

"Do hodiaŭ vespere mi komencos lerni Esperanton."

"Sed mi ne povas mem lerni ĝin. Kiu al mi instruos la lingvon?"

Tiam ŝia patro diris,

"Bone, mi ĝin instruos al vi"

La patro de Ano estas fama esperantisto.

IV

De tiam ĉiuvespere Ano lernis Esperanton. Ĉar Esperanto estas tre facila lingvo, baldaŭ ŝi povis paroli, skribi kaj legi en tiu lingvo. Kaj poste ŝi komencis interŝanĝi leterojn kun esperantistoj en la tuta mondo. Ĉar adresaroj de esperantistoj en ĉiuj landoj estis eldonitaj, oni povas tuj komenci korespondi. Ano ricevis multajn leterojn ĉiufoje, kiam poŝtaĵoj alvenis el eksterlando al sia urbo.

Venis leteroj el Danujo, Anglujo, Francujo, Italujo, Rusujo, Germanujo, Usono, Brazilo, Egiptujo, Hindujo, Ĉinujo kaj eĉ el Japanujo.

Sed post du jaroj en la koro de Ano aperis unu demando. Kaj ŝi demandis la patron pri ĝi.

“Paĉjo, kial Esperanto ne disvastiĝas pli multe, kvankam ĝi estas tre facila kaj oportuna.”

“Jen estas la kaŭzo! En ĉiu nacia lingvo troviĝas spirito de la nacio. Tiun spiriton eminentaj verkistoj priskribis aŭ prikantis en tiu lingvo. Ankoraŭ en Esperantujo ne troviĝas tiaj eminentaj verkistoj.” tiel respondis ŝia patro.

Aŭdinte tion Ano decidis profunde en sia koro kaj ŝi tuj iris al la templo. Antaŭ la figuro de Sankta Vairgulino ŝi genuiĝis kaj preĝis fervore.

“Sankta Mario! Donu al mi la kapablon verki bonajn romanojn aŭ poemojn.”

Kun ĉiuj fortoj ŝi preĝis.

V

Post dek kvin jaroj aperis en Esperanto ampleksa romano, kiu mirigis la tutmondan verkistaron. Tio estis longa rakonto kun tri volumoj kaj estis tiel interesa, ke ĝiaj legantoj ĉiam enprofundiĝis en legado kaj forgesis manĝi aŭ eĉ dormi, ĝis kiam ili finlegis ĝin.

La tuta mondo miregis, kiam ĝi vidis ke tia granda verko aperis el tiu malgranda urbo Rejkjaviko en tiu ekstreme norda Islando.

Kaj la tuta mondo refoje miregis, kiam ĝi sciis ke tiu romano estis verkita de juna virino dudekok-jara nomata Ano.

Post tio multaj homoj en la mondo lernis Esperanton, ĉar ili volis legi nur la romanon verkitan de Ano. Kaj fine la lingvo fariĝis la plej disvastigita lingvo en la mondo.

En tiu sama tempo en Islando oni instruis Esperanton en la elementaj lernejoj kaj la portreto de Ano estis elpendigata en la klasĉambro de ĉiu lernejo.

Krom tio la nomo de Islando, kiu ĝis tiam tute ne estis konata de la mondo, fariĝis tre fama kaj dum sia tuta vivo Ano estis respektata de la popolo kiel nova patriotino de Islando. (la fino)

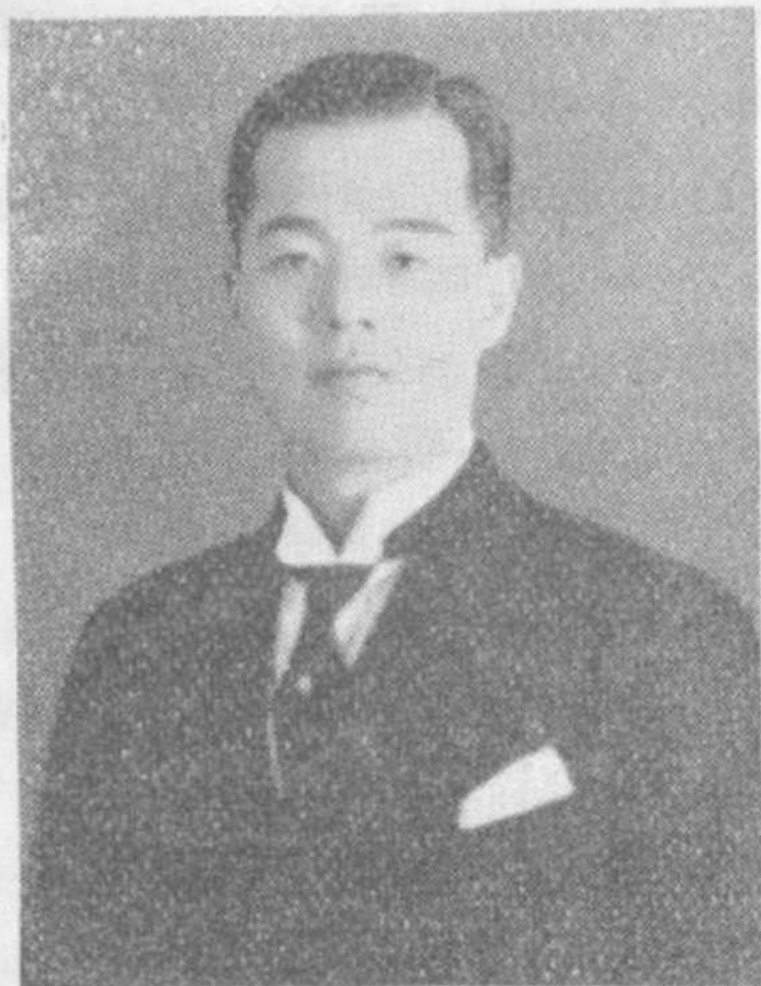
宗 近 兄 を 悼 む

松 葉 菊 延

クリスマスの朝、突然、僕は宗近兄の訃報を手にしたのであつた。

それは、年賀用として葉書に押された『賀正』『元旦』の文字を痛ましくもペンで抹擦して、お母さんと奥さんの名によつて記された死亡通知の悲報であつた。

昨年四月、岡本氏の『和エス辭典』出版祝賀會がオリビツクに催された時、僕は彼もそこに出席してゐるのを發見した。お互に永い間會はなかつたので非常に懐かしかつたが、席がだいぶ離れてをり、しかもあの通りの満員だつたので、閉會後にゆつくり話すのを楽しみにしてゐた。



ところが會が終つていざ會はうとすると彼の姿が見へない。係りの人に訊いて見ると途中で歸つたとの事。さつき會釋を交はした時、どうも顔色がすぐれない様に思はれたが、さては矢張り體が快くないので早く歸へつたのだらう。僕は迂濶な自分が情なくなつた。

その後、彼の事が絶えず氣になつてゐたがそれから間もなく次女のリリ子が病氣になり七、八月の暑い頃は、大分危険で、不眠不休の看護をつづけた。涼風が吹いてリリ子の病氣は危険期を脱したが、全身に、所謂『胎毒』といふ物が出來夜になると非常にかゆがるので、依然として安眠が出來ない。しかも僕の會社では仕事が輻輳し、落着いて物を考へる間もない程で、僕の生活はめちやめ

ちやになつてしまつた。そんなわけで、彼の事も絶えず氣にはかけ乍らも遂に手紙を出すのさへ怠つてしまつた。

そのうち、彼とは古い知合であり、且つ『部』こそ違ふが、同じ海軍艦政本部に勤務の僕の義兄が、突然イギリスへ出張する様になつたので、十一月中旬僕は義兄を東京に訪問し、その機會に彼の事を訊ねた所「いや君にきかれて思ひ出したが、宗近君は大部體が悪いらしい。早速調べて知らせやうといふ返事だつた。

しかし義兄も洋行前の仕度でなかなか暇が無かつたとみへこの知らせは遂に聞く事が出來なかつた。そして僕が義兄を横濱の擡頭に見送つた日の翌日宗近兄は永遠の旅に上つたのである。

僕が初めて彼を知つたのは 1926 年頃だつたと思ふから相當に古い。當時横須賀にあつた海軍技手養成所の造船科に在學中の彼は七月末のある日、僕を訪ねてきた。夏休みを利用して養成所の練習生に初等講習をやつて欲しいといふのである。勿論僕は快諾した。彼の努力により二十名程の聴講生が集り、講習は成功裡に修了した。この講習が、養成所の練習生にどんな影響を與へたかはその翌年も同様な講習が、別の發起者によつて催された事をあげれば充分であらう。(その次の年には養成所は吳工廠に移轉してしまつた)。

これが、横須賀に於ける彼の最初のエスペラント運動であつたと思ふ。

間もなく、彼は養成所を卒業して吳工廠に歸へつたが、エスペラントの研究は相變らず熱心に續けてゐた様で、折々の便りなども常にエス文であつた。

しばらくして、彼は艦政本部に轉勤になり東京に住まふ様になつた。そして異常な熱心を以つて學會の雜務を助け、進んで講習の指導等にあたつた。宗近眞澄の名は毎月 Revuo Orienta にあらはれる様になつた。

人並優れて偉大な體軀と稀に見る人格の所有者たる彼は、學會の様に多角的な仕事を取扱ふ所に於て極めて重要な役割を演じたであらう事は直ちに想像出来る所である。

1934 年の元旦、彼は蟲様突起炎の手術をうけた。餘病がいくつも併發したりして二度も手術をやり直し、経過は甚だ憂れうべき様であつたが、それでも年内のうちに健康をとり戻したとみへて、1935 年の年賀狀には

Yami hokesi

Kozo wa Yume nite

Kyoo no Haru

内外エス運動展望

エス書きローマ案内記出づ

ファッショの本家ローマ市の案内記がエスペラントで出た。菊半裁判二百三十頁七ポイント活字(説明の所は六ポイントの小活字)密組で實に内容豊富である。しかも彩色地圖32葉入の實に美しい案内書である。

發行所は Touring Club Italiano でもとエス案内記 Milano kaj Lagoj de Lombadio を發行したところ。

この案内書はローマ旅行者の手引として役立つことは云ふ迄もないが一般に宣傳の資料として申分のないものであるからエス宣傳家はぜひ一本をそなへられよ。又ローマ文明をしるにもよい手引である。ローマの名所舊蹟の説明が全部エス語でかゝれてゐるから。

ウィーン・ザ祭の盛況

今夏萬國大會をむかへるウィーンでは昨年ラジオでエス講座を放送したがその聴取者の爲め去る 12 月 14 日ザメンホフ祭を行つた。350 名参加。エス演説や歌で賑やかだつた。

猶ウィーンの Danubio 會は 16 日にザ祭を行つた。12日にはウィーン新市域の市敎化學院主催のザ祭あり 150 名出席。

エス出版界展望

近頃でたエス書で異色のあるもの大きなものは：スペインの文豪プラスコ・イバネーズの「血と砂」(Sango kaj Sablo, 22×16 cm. 232頁)。

キリスト教の歌 240 のエス譯(英語より)。書名 Espero Internacia. 13.3×19.7 cm. 230 頁。

Fery Gomboš の作曲タンゴのエス譯。Estu larm' la dolĉa ĉarm'.

有名な Jerome K. Jerome の Tri homoj en boato (AELA 版)。

スエーデンから La homaj rasoj de la mondo といふ、11.5×19 cm. 212 頁、140 個の寫眞入の美麗な本がでた。人類學の本であるが一般人がよんで面白い。しかも世界の一流専門書から借りてきた tute nudaj な世界各人種の寫眞がでゝゐるのでトテも賣れよう。

Kiel fariĝi kreanto kaj rapide. 14×18.5 cm. 230 頁。Petro Den の隨筆集。

最近ドイツから十仙文庫 (Dek-Cenda Serio) がでた。10.5×15 cm. 32 頁位。N-ro 1 が Payson 老作の La fantoma edzino. (物語) N-ro 3 と 4 が Kenngott 編 Usono (米國紹介のもの)。

ラジオ月報エスペラント版

イタリー國情報宣傳省では觀光に關するラ

の一句が僕を微笑ましたのだつたが、偉大な體軀も病氣には克てぬものか、今、俄かにこの計報を手にして全く夢の様だ。

僕等エスペランチストの中には、いろいろの點に於て尊敬に値する人が極めて多い。しかしあらゆる點に於て僕等の尊敬を一身に集めた彼の如きは極めて稀だ。

頼もしい同志を失つた僕等エスペランチストの悲み、それにもまして大きいであらう御家族のお嘆きを、僕は今遙かにロンドンへの旅にある義兄に知らせねばならない。

〔宗近眞澄氏略歴〕 1901 年 6 月 16 日廣島縣加茂郡乃美尾村に生る。四歳にして父上をうしない母上の手一つで育てられた。兄弟なし。高等小學卒業後吳工廠に勤務後兵役につき(重砲兵)後海軍技手養成所に學び 1928 年卒業同吳工廠に勤務後艦政本部へ轉勤今日まで同部に勤務。エスペラントを學んだ年は不明であるが學會の會員になつたのはカードによつて調査した所では 1927 年 4 月 3 日である。1931 年以來學會評議員として大いにその職務につとめられた。

溫厚篤實實に申分のない人格者であつたので評議員會に於ても特に重きをなしてをられた。本誌及エス誌へはときどき原稿や記事を書かれたこともあることはどなたも御承知のことである。

デオ放送の programo を毎月一回発行することになり伊、西、英、獨、佛、エス語等が用ひられてゐる。この月報 Italaj kronikoj pri l' Turismo は Ministero per la Stampa e la Propaganda, Direzione Generale per il Turismo, Roma あてに申込みば送つてくる。

エス語書き商館名簿

ルーマニアの首府ブカレスト商工會議所は今度はじめて商店名簿をルーマニア語、佛、獨、英、エスの五語で出版した。エス名は "Adreslibro de la komercaj reprezentantoj en Bukaresto (Rumanujo)" で菊版 210 頁で世界各地の商業會議所へ配布された。

Germana Esperantisto の廢刊

現在發行されてゐるエスペラント雑誌中で最も古い歴史を持つてゐた «Germana Esperantisto» が、昨年十二月號かぎりで廢刊された。創刊以來 32 年、ドイツのエスペラント運動に寄與するところが大きであつたが、最近起つたドイツ・エスペラント運動の改組織の結果、表面上は Germana Esperanto-Asocio の機關誌である同誌の事實上の發行者であつた Friedrich Ellersiek 氏が、同協會を脱退し、同時に、同氏の經營する、エスペラント圖書の發行所 Ellersiek 書店 (Kabe; Unua Legolibro, Privat: Karlo, Christaller: Deutsch-Esperanto-Wörterbuch, Esperanta Biblioteko Internacia 等多数のすぐれた圖書發行) の事業を清算閉鎖することになつたため、發行が不可能になつたのである。おしいことである。

鮮文「三千里」誌上毎月廿頁の

エス語欄

京城で發行する鮮文雑誌「三千里」(毎月 400 頁、發行部數一萬三千、内地の「キング」と「改造」の中間をゆく様な雑誌)がこの二月號からエス語欄 20 頁を設けることになつた。大山聖華氏等が中心になつて之が編輯について去る 1 月 14 日の百合園の會合で相談した。

「文學評論」誌へエス文學進出

ナウカ社發行「文學評論」誌では近々「エス文學」の欄を設けてエスペラント文學を紹介する計畫との事。一般文學誌へエス文學の進出はよろこばしい。

「世界の實」エス語欄

既報金澤哲學協會誌「世界の實」第 1 號(1 月 20 日發行)は四六倍版四頁であるがその一頁を全部エス欄とし Frukto de la mondo (S. A.), Dek dekologo de Gandy (S. A.), Fundamenta problemo de la teoria fiziko. Unuagrada belarto (S. Aisaka) をのせてゐる。

世界文藝大辭典とアサヒグラフ

中央公論社五十週年記念出版たる世界文學大辭典は世間の注目をひいてゐるが同辭典には「エスペラント」及び「エスペラント文學」の二項目が收められることになつてゐる。執筆小坂狷二氏。

なほ前月號報道の如くアサヒグラフ 12 月 11 日號にて土岐氏がかゝれた「ザメンホフ祭」は寫眞が多くて二頁にわたつたもので宣傳上多大の効果があると思ふ。

岩波「教育」誌新撰和エス批評

教育誌として定評ある岩波書店の「教育」誌 1 月號にて教育書評欄で「新撰和エス辭典」が相當大きくとりあつかはれて批評された。

産婆學校でエス語教授

熊本エス會長神尾碧堂氏の關係してをられる産婆學校では神尾氏自身エスペラント語を教へてをられる。だから同學校ではエス語を學ばねば卒業出来ぬ由。

Inoj の機關誌生る

女流エスペラントチストの連絡機關誌が生れた。美しい謄寫版刷りの «BUKEDO» がそれである。二ヶ月ごとに發行。婦人同志の参加と寄稿を期待してゐる。誌代は一冊實費五錢、申込先は、京都市上京區樺木町烏丸西松村千代嬢方 Kioto Virina Rondo.

今夏の日本大會準備すむ

今夏札幌にひられる日本大會の準備は着々すすんでゐる。ツーリストビューロー支部とも打合せて出来るだけの便宜を計つてもらへる様努力してゐる。例へば本州からの参加者のため廻遊の案内プログラムの編輯。猶市長の臨席祝辭朗讀は勿論の事。名古屋大會における如き午餐會に招待される様なことになればと目下努力中。

全国各地報道

投稿注意:

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月 18 日 (但 18 日以後到着のものものせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 写真は臺紙なきもの (裏に必ず説明記入の事) 写真は返送せず資料として保存す。

各地ザ祭の盛況

東京 ★東京エス・クルーボ——12月16日於鐵道俱樂部。定刻既に立錫の餘地なく參加者百三十八名近年稀なる盛會裡に開幕された、原田三馬君の開會の挨拶に次いで小坂狷二氏「ザメンホフに關して」(エス語)と題して最も苦難時代のザメンホフの生々しい歴史に就いて。大いなる感銘を與へた。次いで學會特派員として九州地方の情勢視察をせ



★中華留日世界語學會——12月15日15時より日本エス學會階上にてザメンホフ祭を開催(上掲寫眞はその記念撮影)。三十餘名出席、陳、金、顧、小坂、岡本、三宅、高木、酒井等諸氏その他の講演あり。講習生中より朱嬢、馮氏のエス語挨拶あり盛會。

られた久保貞次郎氏は前夜歸京の疲れも見せず健康な童顔を壇上に現し、九州地方の同志の運動を具に報告し、併せて我國エス運動發展の爲め諸氏の絶大なる支援を學會に與へられたいと結ぶ。新しい試みとして本年エス語

Intern. Medicina Revuo

TEKA 機關誌 Internacia Medicina Revuo は四月から日本で發行される。詳細次號。

を始められた方々の挨拶があつた、酒井鼎、朱文央嬢、石原吉郎、百瀬博の諸氏。猶多年幹事として活躍された萬澤まき子嬢が辭任され新に寺喜久治君が推選され承認を得た。はるばる出席された土井八枝夫人(土井晚翠氏夫人)が愛兒故英一君の有りし日の熱情的なる運動の一端に言及し、龜の歩みのよし遅くとも皆様と共にザメンホフ先生の遺業に勵みたいと挨拶せられた。

- 餘興 1. Malriĉa en spirito クララ會有志
2. 民國學生の合唱
3. 荒城の月 獨唱 泉 茂 雄
4. Johanĉjo-Malsagulo 學會例會有志
22 時高橋肇君の開會の辭にて閉會。

横濱 ★横濱エスペラント協會——12月15日19時より中區北仲通自働車組合事務所階上にザ祭開催。出席者 35 名、(1) エスペーロ合唱、(2) 開會の辭(富盛氏)、(3) 朗讀“Prego”(水谷氏)、(4) 各ロンド挨拶——Y. M. C. A. (鈴木氏)、アミキーノ(澁谷嬢)、藤棚(佐々木氏)、(5) 九州旅行の歸途特に御出席下さつた久保氏の講演(アメリカエス界の現情と九州旅行の印象)、(6) 東京より御出席下さつた佐々城、岡本兩氏の興味深き講演、(7) 閉會の辭(佐久間氏)、(8) タギージョ合唱。司會は吉田氏。

仙臺 仙臺エス會——12月14日18時半より明治製菓に於て舉行。司會鈴木北夫氏。自己紹介。菊澤季生、井川城、酒井瞭吉、荻谷寛諸氏の思ひ出話あり。なほ開會に先立ち、5時35分より菊澤氏の parolado 宮城女學校生徒の kantado のラヂオ放送を聴いた。

小樽 ★小樽エス協會、小樽佛教エス會、小樽エス會話研究會共同主催——12時より稻穂町グリル・ルーム別室に於てザ祭を舉行。出席者 19 名。先づ福田氏開會を宣し、次いでエスペーロ合唱。自己紹介。各會の報告(佛教會、本間氏)(協會、福田氏)(會話研究會、高橋氏)。有志の挨拶。茶話會。ザ博士の偉業を偲び、餘興、記念撮影、タギージョ合唱、盛會裡に閉會午後十時。なほこの日、小樽新聞の記者田中氏の御來會を機會に各會より、吾エス運動に對しより一層の理解と後援あらん事を希望した。(藤川氏報)〇

帶廣 ★帶廣エスペラント會——12月15日副會長菅沼氏宅に於て、第三回ザメンホフ祭を舉行す。參加者十八名、盛會であつたが fraŭlinoj が風邪の爲出席されなかつたのは物足りない。(1) 開會の辭、長谷川守氏、(2) エスペーロ、(3) Prego, (4) 會長

各地ザメン



↑長崎エスペラント倶楽部

金澤商業→
エス會



↑熊本エスペラント會



↑京城の同志

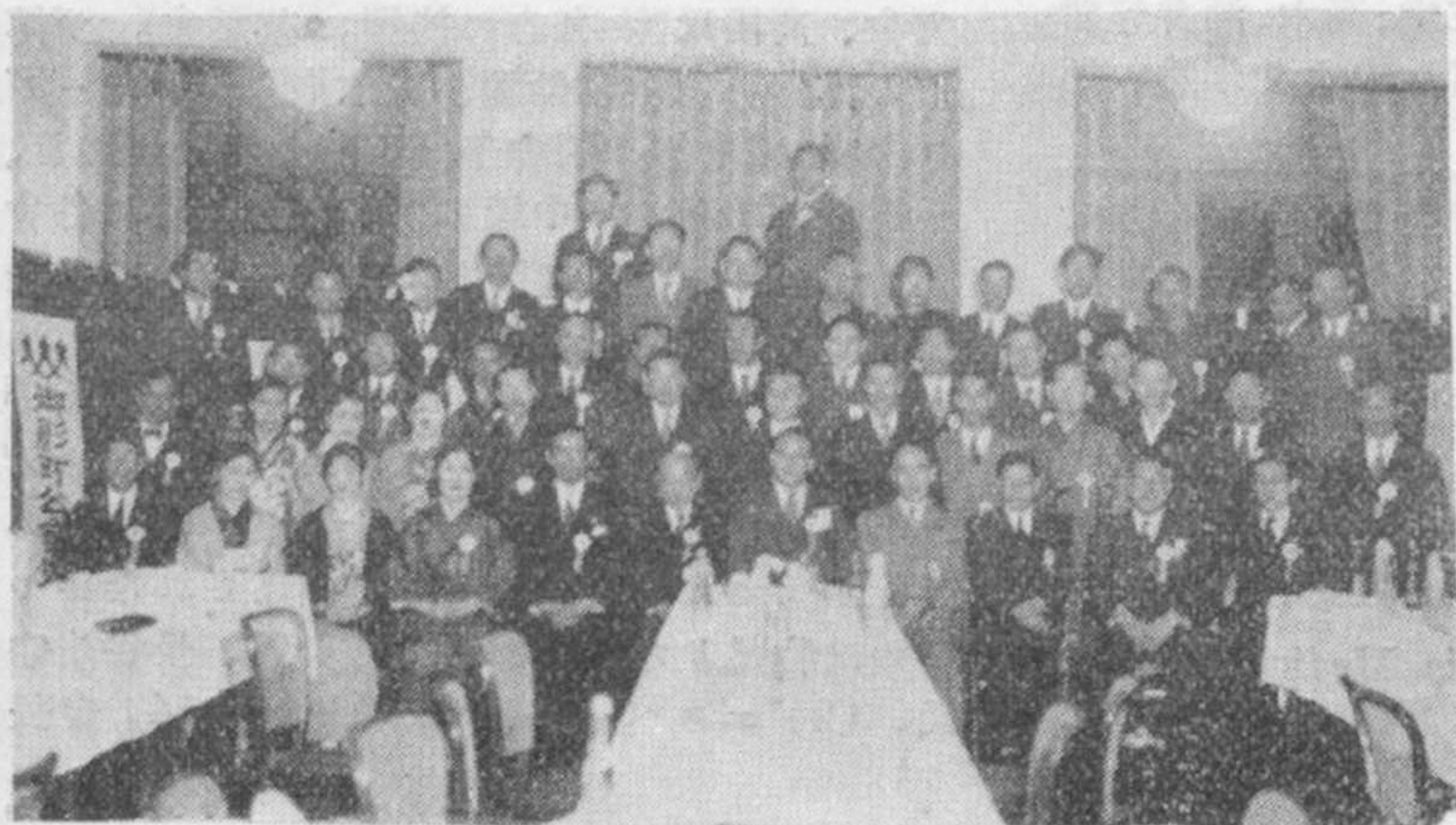


↑宮崎エスペラント會



↑名古屋ルームクンシード

←京阪神聯合ザ祭



ホフ祭の盛況

〔寫眞説明は 33 頁〕



↑金澤エスペラント會



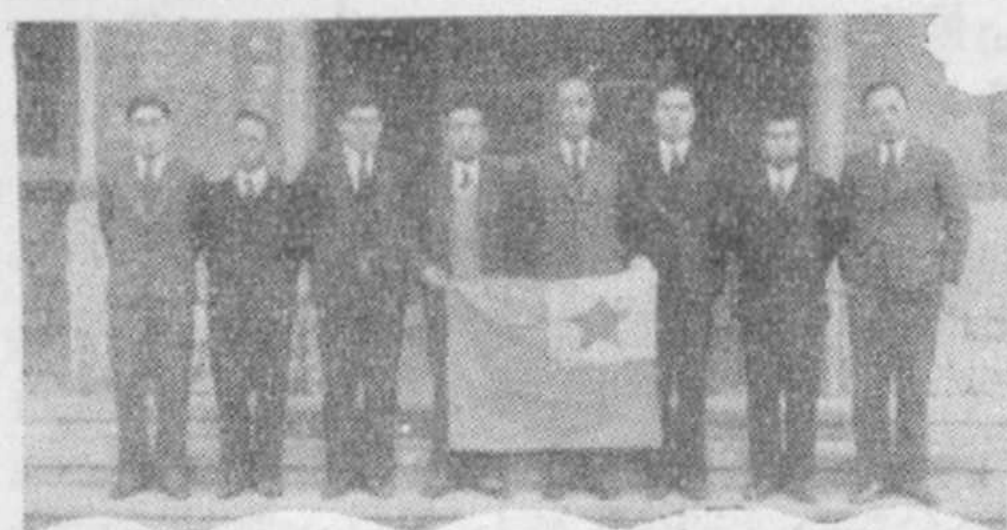
↑飯塚エスペラント會



↑帶廣エスペラント會



↑小樽エス協會其他合同

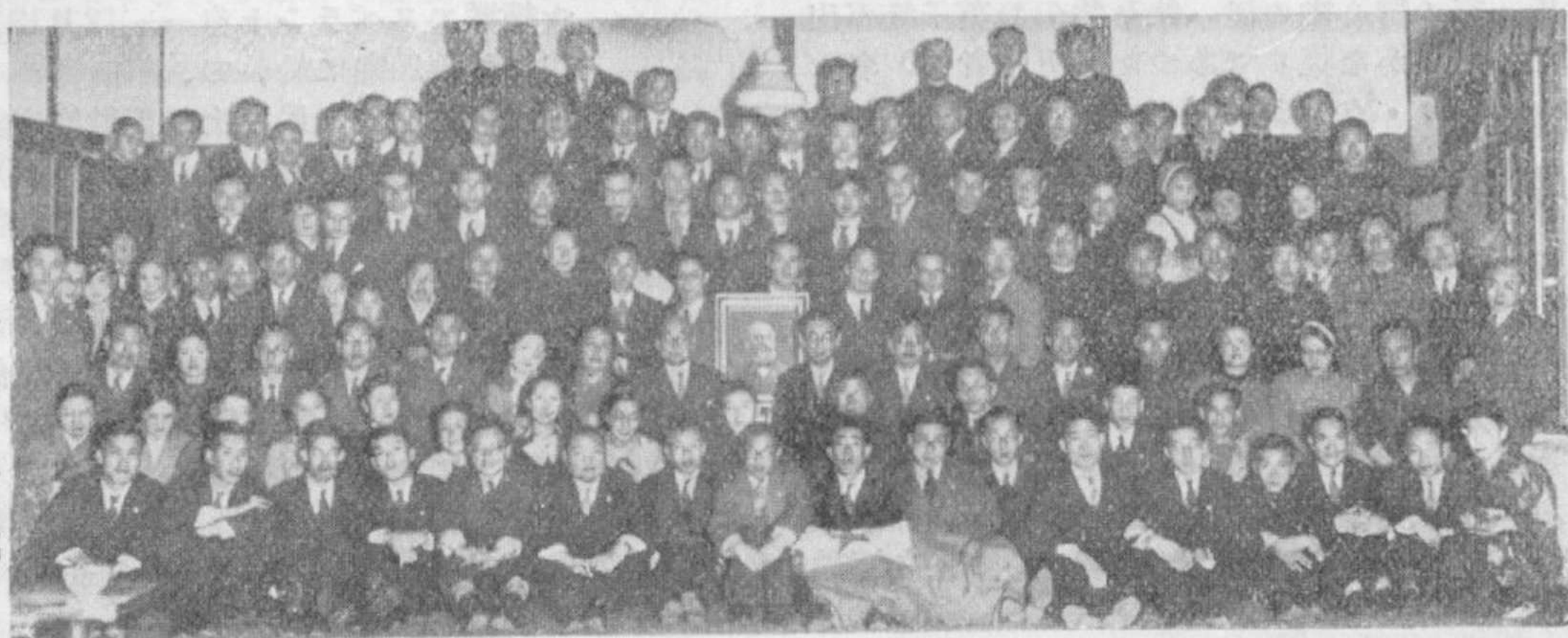


↑大連エスペラント會



↑苫小牧エスペラント會

→東京エスペラント俱樂部



並に副會長の挨拶、塚田勝氏、菅沼寛氏、(5)有志の挨拶、(6)ザメンホフの生涯、沼田芳藏氏、(7)餘興、(8)閉會の辭、佐藤松男氏、ザ祭の收穫は何んと云つても新進氣鋭 Komencantoj の驚異的進歩振りであつた。

札幌 ★札幌エス會——12月26日鐵道との重複を避けて、ザ祭をこの日まで延期した。出席者20名、仲々の盛會であつた。尙日本大會期成委員會の報告あり。道廳觀光係山田氏の大會參加者歡迎準備の説明及び希望事項を話された。

秋田 ★秋田エスペラント會——12月15日19時より赤十字支部病院に於てザ祭舉行、猛烈なる吹雪を冒して參集する者九名。終日の荒天の爲、計畫通りの事は出来なかつたが各自の想ひ出話や Komencantoj の爲にエスペーロを練習する。散會21時。放送は既報の通り。

富山 ★富山エス會——當地ザメンホフ祭は12月14日西町宮市大丸特別室で午後六時半より九時まで開會。出席者15名。明年の北陸大會及び今後當會の總會を持つことに就いて協議。

名古屋 ★名古屋エス聯盟——12月15日19時より、白木氏宅に於てザ祭開催。開會の挨拶(竹中)。エス譯君が代合唱。各エス會を代表し、矢崎(醫大)、林(ルーマ)、淺野(Y.M.C.A.)、竹中(N.E.S.)氏等、過去一ケ年の行事を報告並びに新年度に對する抱負の發表あり、續いて明年度の聯盟當番を選舉せる結果、ルーマ・クンシードに決定。エスペーロ合唱の後餘興に移り朗讀(白木、金子)、舞踊夕焼小焼(白川少女舞踊團)、エス譯名古屋踊り獨唱(竹中)、エス手品(白木、山田兩嬢)、獨唱(林、内藤)等あり。後大會の折色々の任務の爲市内同志の大部分が見なかつた映畫「人類の聖なる旗手」を観る。タギージョ合唱して閉會、時に22時。その間白木氏一家の御心盡の溫い飲み物やお菓子等が出て、和やかな集りであつた、出席者20名。

★ルーマ・クンシード 一般報道參照。

京阪神 ★合同ザ祭——12月15日、御影公會堂にて14開會。主催者を代表して前田健一氏(神戸)開會を宣し Espero 合唱ザ祭名譽會長として月木喜多治氏をおす。月本氏の挨拶あり。後前田氏司會の下に地方會代表の挨拶あり。1. 甲南アミーコ(湯川良彦)、2. 京都エス聯盟(本野精吾)、3. 新星會(兒島壯一)、祝辭祝電披露、4. 岸和田エス會(中西義雄)、5. 尼崎エス會(久澤數

美)、6. 神戸エス協會(永井海乘)、7. 大阪エス會(西村正雄)、8. 大鐵エス會(宮本新治代理)。15時講演に入る。

1. UEA とは何ぞや 進藤靜太郎氏

2. エスペラント思ひ出話 月木喜多治氏

之より階上の宴會場に移りザ祭懇談會を催す。來年度ザ祭開催地を議したが未決定。各會より一名宛選出の委員會に一任。記念撮影の後親睦晚餐會、神戸協會特別肝入の灘の生一本を提供。おかげで卓上演説獨唱詩吟等得意の隱藝が景氣よくとびだした。次に待望の大阪エス會の Revizoro 演出。黒崎、進藤兩氏の聲の芝居だ。狂言は神戸エス協會演劇御力演の父歸る。つづいて舞臺扮装のまま木曾節おけき踊等大いにはしやいて散會21時。

広島 ★広島エス會——前月號久保特使報告中にあり。

岡山 ★岡山エスペラント・クラブ——12月16日午後7時より當クラブ主催により明治製菓に於てザ祭を催す。出席者21名、この中には岡山エス界草分けの一人で、ガントレット氏のエスペラント講義録を印刷した村本達三氏あり、興味深き想ひ出話を聞く。また岡山に於ける日本大會當時よりの大立物、磯崎、紫田兩氏。多趣味な醫博として知られて居る淺羽武一氏。岡山醫大ローマ字會よりの福永氏等あり盛會であつた。尙特筆大書すべきはこのザ祭を機として「全世界手紙祭」を當のクラブの名の下に提案したことだ。發案者磯崎氏の説明に出席者一同賛成、直ちに激文を全世界に發送する事にした。Disko を聞いたりして12時散會。

戸畑 ★戸畑エス會——12月15日18時半より戸畑エス會(林氏宅)に於て、北九州エス聯盟のザ祭を開催。ザ博士の著作及び寫眞を配して歡談。參會者三浦(折尾)、白石、岩崎(八幡)、田中(小倉)、田口、林(戸畑)の諸氏。

飯塚 ★飯塚エスペラント會——12月12日花村秋義氏宅に於いて、第四回ザメンホフ祭並に學會特使久保貞次郎氏歡迎座談會を開催。(1)開會、君が代、開會の挨拶、野見山會長、(2)エスペーロ。(3)歡迎の辭片山政子氏、(4)答辭、久保貞次郎氏、(5)晚餐會、(6)懇談會、自己紹介、(7)ザメンホフ祭、(8)記念撮影、(9)祝辭、(10)餘興、(11)タギージョ、(12)閉會の辭。

熊本 ★熊本エスペラント會——上通町水谷食堂階上にて19時より開催。參加者は意外に少なく九人。神尾氏の肝入りで

alkoholajo が益々和やか。此日加藤、七谷兩氏の努力に依つて、漸く完成した機關誌“La Vojo”が一同に配付される。西尾氏の版畫の表紙は素晴らしい好評。

司會者坂崎氏、過去一年間のエス界の経緯を、ザメンホフ祭に追想する喜びに初まり、終始眞摯に流暢に話さる(加藤氏通譯)——記念撮影に來た石淵寫眞師が、はからずも、同志である事が知れ、一同の喜びは倍加した。餘興を廢して、座談的に協議に移る。

決定事項は次の通り。

會費毎月 20 錢(従前年一圓)(但 La Vojo 並に姉妹紙 informilo 發行補助の爲)。La Vojo と informilo の配付を受ける者に自發的に 10 錢宛 La Vojo 發行毎に送附願ふ事。

先日特使久保氏來熊の折話の出た、學會發行圖書を書店にて依託販賣する具體的方法として、書店々頭に永久的なる afsó を設け、書籍全部に熊本エス會に關する宣傳文書を挿入する事。

猶愉快な決議は、從來の坂崎氏宅に於ける第二月曜の會話並邦文エス譯の例會の分を、以後毎月熊本エス會の定期例會(月例懇談會)として、會長神尾氏宅に開く事を、神尾氏の好意ある承諾で實現した事であつた。之については以前より會員の希望であつたもの。來年熊本に九州大會を招待するかについては、加藤氏より詳細に説明あり、之は福岡の回答を待つて決定する事にし保留。

散會前神尾氏のライカに、一同芽出度く收まつて散會。

大連 ★大連エスペラント會——12月15日滿鐵社員俱樂部にて午後一時よりザ祭開催。來會者九名、例年に比し少なかつたが色々懷舊談に花が咲き愉快な會であつた。殊に最近發行されしエス語書き滿鐵案内書の翻譯者寛太郎氏及び古き同志中溝新一氏の御出席はこの會合を益々有意義ならしめた。來る年の奮起を申合せ七時散會。

各地ザ祭寫眞説明 (本誌 30-31 頁)

(すべて向つて左より)——〔熊本エス會〕(前列)三浦、高本、神尾、市原、本田、(後列)坂崎、七谷、鶴野、加藤の諸氏。

〔宮崎エス會〕(前列三人目)、菊地、杉田、本部、兒玉、崎村、(二列)三人目より大田、山下、(後列)中川、渡部、——、杉田の諸氏諸嬢、(最右端)北尾教授。

〔金澤商業〕(前列)竹内、二口、木村、守

田、富田、(後列)西木、菅野、松田、越野、藤本の諸氏。

〔京城〕(前列)長谷川、金億、大山、羅元和、(後列)豐川、佐藤、李星、横山、朴漢の諸氏。

〔名古屋ルーマ・クンシード〕(前列)林(健)、磯村、林(一)、池田、(中列)岡本、伊藤(虔)、中川、上島、伊藤(太)、黒田、(後列)尾崎、田中、永田、加藤、永桶、内藤の諸氏。

〔京阪神合同〕(第一列)宮本、市川、城戸崎夫人、福原、本野、月本、前田、進藤、松本、兒島、中村、(第二列)澁江、多田、三品、西村夫人、糸井、土師、西村、竹内、上月、——、戸田、宇都宮、坂内、(第三列)湯川、永井、木村、——、桑原、中西、城戸崎、橋田、黒崎、(第四列)赤田、藤田、近藤、和田、柳、服部、多木、川崎、岡部、原木、田口、——、高橋、里吉、(第五列)上妻、中原の諸氏諸嬢。

〔小樽エス協會、會話會、佛教協會〕(前列)小安、外山、田中、野村、岡崎、福田、(後列)丸山、桐野、渡邊、江口、中島、竹内、藤川、逸見、大塚、山本、本間、佐原の諸氏。

〔金澤エス會〕(前列)平石、由比、吉川、松任、渡邊、瀬川、藤原、田中、松田、(後列)森、永島、宗廣、榊野、大瀧、坪田、松葉、清水、山口、中上、大谷、武田、矢徳、菅野の諸氏。

〔帶廣エス會〕(前列)池田、菅沼、塚田、長谷川、沼田、(中列)山本、上田、堀中、佐藤、井關、木葉、(後列)古井、佐藤(正)、渡邊、鷹谷、船木、井上、長田の諸氏。

〔苫小牧エス會〕(前列)岡垣、鈴木(春)、渡邊、川原田、中野、門脇、(中列)鈴木(武)、菱沼、野田(敏)、村山、岡垣、進藤、(後列)土田、菅原、庄野、丸山、佐藤、野田(稔)、川村、橋詰、田中の諸氏。

各地一般報道

東京 ★東京クンシード聯盟——一月の委員會を 11 日銀座に開く。Nova では九日新年宴會を開いて出席者 15 人。武蔵野では新年の計畫として古いエスペランティスト Kimata 少將を訪れて話しを聞く會をもよほす豫定。なほ二月中旬から同氏の子息の經營する木全(Kimata)寫眞館で講習會を開くことに決定、受講希望者は西荻窪驛南一丁左

へまがつた木全寫眞館に問合せのこと（電話がある筈）。更に『武藏野をしのぶ』といふ題で brošuro を出版する計畫。クララ會では女子の講習會を開くことに決定。希望者を便宜各 Rondanino で分けて自宅で個人的に教へるといふやり方にする筈。問合せは赤坂區中ノ町 15 井田氏宛。

★一高綠星會——1月17日15時から第一高等學校で久し振に普及講演會をもつた。講師川原次吉郎氏（日本文化とエス）、小坂狷二氏（エスについて）、丘英通氏（科學とエス）、岡本好次氏（三高エス會の思ひ出）であつた。出席者 60 名餘の盛會であつた。夕食後 18 時半から座談會にうつり長谷川理衛氏（京城帝大教授）及小坂、岡本三氏を中心に二十數名出席エスレコードをききながらいろんな角度からみたエス運動の話をききゆかいに一夕をすごす。

★Luma Rondo——1月11日（第二土曜）例會として »Vespero de Esp.-movado« を開催した。現在、稍ともすると沈滞し勝ちな我々の運動を多少なりとも促進し、前進せしむる爲である。出席者 22 名。最近地方會を視察して來られた久保氏及び學會の三宅氏等の御意見を伺い、それに基いて、先づ學會の活動に就いて、»R. O.« 及び »エスペラント« の編輯方針に就いて、またそれ等に對する不満、要求等々、そして更に、我々 esp-istoj は何を爲すべきか？我々の運動は如何に行われるべきか？に就いて活潑な討論が計われた。そして最後に、各自 1936 年度に於ける esp-isto としての所信、抱負を述べて vigla atmosfero の裡に散會した。次回は 2 月 8 日「エス文學を語る夕」をもつ。（殷氏報）

★Scienca Rondeto——1月11日帝大物理學科の學生を中心に日本レントゲンの西川氏學會岡本氏等約十名出席。各自自己紹介をかねて抱負をかたる。

★東洋文史研究所——I. 過般募集せし懸賞論文應募者次の通り、四日市：福田正男（日本神道史概要）、目下審査中、發表 R. O. 五月號。參考應募：「東洋史序論」露木清彦（無賞）。II. 機關誌 „Orienta Kulturo“（四六倍判季刊）發行につき日本及東洋の文物史實に關するエス文記事募集（送り先：東京駒込動坂 326 同所）。III. 本會の趣旨を徹底させる小報（プリント）を隔月發行し廣く希望者へ無代配布する。IV. 次の部會を新設した。a) 日本歴史研究會。b) 東洋歴史研究會。（其の他アイヌ文化、佛教文化等の研究會も設立す

る豫定、參加希望者は申込まれたし。）

横濱 横濱エス協會——12月12日例會、吉田太市氏を中心に teksto を用ひて研究。出席者 14 名。◇12月19日例會、今年度に於けるレヴオ・オリエンタの合評、堤長治氏、出席 11 名。◇12月26日例會第 333 回を祝す。自由會話、出席 10 名。◇1月2日ドルセイに於て新年最初の會を持つ。出席 2 名。◇1月9日例會。新年に當り今年の希望を交々述べる。出席 13 名。

★Y.M.C.A.-ESP.-GRUPO——12月10日19-21時、Y.M.C.A. 理事室に茶話會をもつ、出席 15 名。なほ初等講習終了。例會は 24 日を以つて十年度納會。新年度初會は 1 月 14 日 19 時より。用書未定。中等講習は續講、用書はイソツプ物語。

盛岡 ★盛岡エス會——12月15日宮崎縣へ御榮轉の大坪氏の送別午餐會を公會堂にもつ、出席者五名。◇12月18日123回例會、協議會を兼ねた本年最終の會合なので多數出席を期待したが缺席者の多かつたのは遺憾。協議事項、新年例會始會日 1 月 8 日。講習會其他に關する協議會 1 月 15 日。M. E. R. 會則案協議（保留）。◇1月8日124回例會、新年の挨拶の會。出席者三名。井川氏の素晴らしい御馳走を戴き恐縮。◇1月15日例會、出席者二名。雪少く、寒氣酷く感冒大流行、協議會中止。安本氏の東京土産話。Movado に就て討議す。

苫小牧 ★苫小牧エス會——12月22日19時より驛前渡邊待合に於てザ祭及び十年度總會、並にこの日室鐵エス會より參加の中野、渡邊兩氏歓迎晚餐會を催す。出席者 10 名。尙工業生冬期休暇の爲、一月中旬迄休講。◇12月30日札幌エス會の藤本氏と旭川エス會の菅原氏當會を訪問。◇1月2日岡垣氏宅に於て新年晚餐會をもつ、歸省中の藤本氏を加へ 7 名、深更まで歡談。◇1月14日19時より岡垣氏宅に臨時に會合をもち、學會よりの依頼の R. O. 増頁援助問題に就き協議、會員中より川原田、村山の二君を推薦、學會々員となる。猶日本大會準備委員會に對し、具體案數項議決、即日實行を要請す。

帶廣 ★帶廣エスペラント會——1月1日長谷川、佐藤、菅沼の諸氏、會長宅にて新年最初の會合をもつ。◇1月6日旭川エス會長木津義雄氏來帶。塚田會長宅に於て歡迎會開催、出席者佐藤、長谷川、沼田、塚田、inoj の參加なく、アルコールジョの勢で大いにバビる。

札幌 ★札幌エス會——11月27日初講終了茶話會を浪越氏宅で開催。21名参加(前號寫眞参照)。◇30日機關誌の印刷を引受けて居た佐藤君が數ヶ月の出張を命ぜられ非常な打撃だ。同氏は此日12時の汽車で出張した。◇12月4日例會日講習會後にて参加者多く盛會。◇12月24日、相澤氏市當局訪問、教育課長に面會日本大會につき種々説明し陳情す。同氏も支持を約された。◇25日藤本、木村氏來訪。◇26日、小樽福田氏來訪。◇27日、小樽坂下清一氏來訪。◇1月8日、室蘭より山崎氏來訪。以上何れも大會について話す。◇15日、小樽江口脇坂兩氏來訪。

北海道エスペラント運動史

北海道エス聯盟で編纂した半紙版22枚トリーシャ版刷。希望者は價10錢・送料2錢をそへ札幌市南四條西十四丁目札幌エス會宛申込れたし。部數僅少。至急のこと。

秋田 ★秋田エスペラント會——暫く休んだ研究會は新年八日から毎水曜19時から秋田圖書館で再び華々しくもつことになった、用書は、エスペラント誌、霧の中。曩に小樽の福田氏、今回東京の田畑氏の來訪はよき刺激。爾今秋田を御通過の諸氏の御立寄を乞ふ。

富山 ★富山エス會——當會の重鎮であり、缺くべからざる闘士たる渡部隆志氏は、今回その勤務先である學校との關係から、今後當會幹事たる事及びその私宅を當會事務所とすることを拜辭し度き旨申出られた。これは當會のみならず。エスペラント運動にとつて大きな打撃であるが、同氏一身上の事情として承認せざるべからざるところのもので、12月6日より當會事務所は富山市總曲輪ハコベ喫茶店内に變更した。◇Marda Kunsido——引續きエゾ1ボを使用して輪讀會を開いてゐる。毎回出席者7-10名。岩杉氏は相變らず三里の路を物ともせず、開講以來無缺席である。五艘氏も無缺席だ、更に同夫人は朝から19時迄のお勤めの中を押して出席されて居る。◇Vendreda Kunsido——從來會場を渡部氏宅にもつてゐたところ、地理的關係から出席者少く殆んど解散の状態にあつたが、最近再び會場をハコベ喫茶店に移す事となつた。

エスペラント書き名所封緘紙

富山エス會々員馬場八十松氏は各地風景日

付印に材を求め私製の封緘紙を作製された。同封緘紙を御希望の方は富山局電信課内同氏宛に拾錢封入申込めば、8 serioj 送らるゝ由(1 serio は十枚を組とし、富士、嵐山、鎌倉大佛、上高地、中禪寺湖、奈良、錦帯橋、富山、名古屋、十和田湖の風景を収めエスペラントで説明を加へてある。

名古屋 ★名古屋エス會——毎週火曜の夜、中區鐵砲町二丁目白木氏方で輪讀會を續けて居る。出席者は12月17日2名、24日3名、1月7日5名。

★ルーマ・クンシード——10月20日本月より月一回、休日利用親睦小遠足會開催案決議、東山森林公園に散策、参加者上島、池田、林、黒田。◇11月3日第二回小遠足會として、名古屋城外苑芝生へ、参加者6名。◇12月7日Z博士を偶びLa Lumo 特別發行。第23回日本エス大會出席者へザ博士浮彫特別割引申込書發送。◇12月14日夜七時明治製菓集會室にて昭和十年度定期總會兼ザメンホフ祭開催。黒田氏司會、出席者17名(寫眞参照)。◇

四日市 ★四日市エス會——1月2日桑名中學の同志後藤三男君來訪。◇1月3日幹事吉岡登良夫氏歸郷の爲、同志數名驛に見送る。同氏歸郷の途上、松代エス會(3日)長野エス會(5日)松本エス會(6日)名古屋エス會(7日)等を訪問多大の收穫あり。◇1月11日學會々員増加の件につき相談、新會員四名獲得。◇桑名エス會の加藤氏の訪問あり、桑名、四日市合同の回覽雜誌編輯に就き協議。◇1月15日福田正男氏、桑名エス會を訪問。

大津 ★滋賀エスペラント聯盟——中大路政治郎氏の死、明晰な頭腦と情熱獨自の宗教的信念を以つてエス運動に盡力され當地方の先覺者で重鎮であつた氏の死は悼ましい。晩年に於ける彼の生活は實に闘病とエスペラントであつた。病床に呻吟しつつ外國通信、御子息の指導、エスペラントの謔言は彼の最後の言葉であつた。『エスペラント葬にして下さい』同志の手によつて嚴かに営まれた告別式は、はしなくも12月15日ザ祭、その日であつた。冥福を祈る。◇12月2日より十日間、會員島影君宅に於て講習會開催、七名。講師中野、用書八木講習讀本。◇月例會、11月13日出席8名、京都生産學園の小林氏出席さる。同志吉田皆藏君の結婚祝賀會

をも兼ねる。◇ザ祭、中大路氏宅に於て司會
山本三氏出席者十數名、京都より山口氏參加
さる。

大阪 ★大阪エス會——輪讀會用書スラヴ
篇も終結に近づいたので、次の用書
選定に關し研究、對議數回。就中翻譯物か原
作物かの議論が盛んであつた。が原作物に決
定。更に小説か論文かに付いて種々意見もあ
つたが結局 Privat: Interpopola Konduto が
最新刊でもあり、著者の完全に自己のものと
された文體特にその諧調、語勢上の用意等を
玩味する様に決した。◇豫定變更: Februario,
1936 (例月は第三火曜夕)、第二火曜(2月11
日紀元節)平野町心齋橋筋南へ入 Kafejo "La
Trapezo" にて: 先輩に物を聴く會。其他毎
火曜 19時—21時天六北市民館にて Privat:
Interpopola Konduto 輪讀、Zamenhof 譯劇
朗讀、通譯練習、R. O. 精讀等。

★パパゴ——どこかにまだ、十日戎の賑ひの
残つて居る十二日の道頓堀。バザルト喫茶店
で Novjara Kunveno を持つ。京都から神戸
からそして大阪の同志達 20 餘名集ひ合せた。
例の如く自己紹介に始り、山口氏の“エス運
動の現状”と題する Parolado あり。36年の
抱負に緑の花が咲き、Tagiĝo Espero の合唱、
心齋橋を散歩し散會。

神戸 ★神戸エス協會——◇11月14日。
出席者7名。阪神合同ザ祭 prezen-
taĵo の練習、宮本氏ザ祭準備經過報告後當日
の役員指名、會計澁江、受付坂内、會場永井、
當協會本年度總會開催の件に付き協議 12月
5日開催と決定。◇21日。ザ祭 aktoroj 4名
と久振の柳氏が出席。◇28日。8名出席、
aktoro 一名病氣故其の後任として上妻氏をお
す。更に其の練習に拍車をかける。◇12月5
日。定期總會、宮本氏議長として司會。今年
度協會事業及會計報告、委員改選新入拔擢の
聲上るも結果実行力のある前委員重任で落ち
付く。會長月本喜多治、教育前田健一、會計
宮本新治、宣傳和田俊次、庶務、會報、圖書、
中村智各新委員挨拶に次ぎ來神中の小野田氏
別れの挨拶あり、大分へ御轉任後の氏の御活
躍祈る。◇12日。7名出席、宮本氏ザ祭準備
經過報告地方會の助力を得て作製した京阪神
izolitaj esp-istoj の adresaro により此の十日
invitkarto を發送した。警察關係の了解も得
programo も既に出來上る。

★永文堂書房初等エス講習(第一回)——1月
11日19時より毎火土約二ヶ月間。短期講習

書にて講師同書房主永井海乘氏。後援神戸協
會及佛教エス聯盟、參加者8名。場所須磨區
飛松町3の1の58永文堂書房。

広島 ★広島エス會——12月21日。O.E.S.
の伊藤幸一氏、九州から歸途本會を
訪問。◇12月28日奥村氏、入營の爲郷地大
阪へ歸阪。◇1月15日19時年頭の例會を名
井屋喫茶店に開催、高橋會長感冒の爲缺席。
野村氏蒐集の外國兒童圖畫を展覽。會長の提
唱により「新年」或は「新春」にちなむ5分
間以内の演説あり、面白く、有益。次でエス
運動に關し、協議。本年も例會は毎月1日、
15日高橋氏宅。尙 komencantoj には毎木曜
同氏宅に於て黒田氏指導のもとに“Karlo”
の研究あり。

呉 ★呉エス會——12月27日例會を翌28日
に繰下げ、本年最終の會を持つ。出席
者、矢野、村上、平川。この日歸省中の畑正
登君、本會を訪問。◇1月1日星加君、松山
エス會を訪問。◇1月3日臨時午餐會を催す、
畑、村上、應和、平川、大澤、矢野の諸氏出
席。◇1月12日例會、例會の今後の方針を協
議、本會顧問より出口宇智磨、西村光月氏を
除く事に決定。三月末迄例會は不定期開催の
豫定。出席者四名。

行橋 ★行橋エス會——12月28日例會席上
に於て、杉下氏は明29日奉天へ出立
の旨發表。豊守、南、鮎川の三名は restoracio
に Esperantaj diskoj を開き、さゝやかな送
別の會を持つ。翌29日午後2時10分發に
て一路滿洲へ向ふ。行橋としてはまた一人の
batalanto を失ふのは淋しい。尙同氏の adreso
は奉天紅葉町31森園方。



久保特使
をむかへた
行橋エス會
の人々(左
より)

[前列]南
久保、笹原
鮎川、[後
列]豊守(親)、田邊、田中、杉下、豊守(誠)
の諸氏。

戸畑 ★戸畑エス會——1月20日19時例
會、小倉市魚町ナオミ喫茶店に於て、
北九州エス聯盟の例會を持つ。學會の援助方
法。本年の計畫等を協議。出席者田中、岩崎、
三浦、林の諸氏。(林氏報)



久保氏を迎へて別府における
国際文化大講演會

大井町 鎌田 秀治
田端 大島 完一

(以上 新)

テキストは前回同様、學會發行、下村氏著
“Esperantaj Fabeloj”である。

◇Jaŭda Kunsido 青木武造指導、テキスト
“Hungaraj Rakontoj”。

◇Nova Kunsido 常に 15-6 名の出席者あり盛會である。やがて初講を終へたばかりの新人連が講師又は先輩に連れられて現れよう。Nova が再び文字通り、Nova となるのはこの時だ。

大阪 ◇會話を主とした研究會 今迄は研究書を基礎として研究されてゐたが、好指導者田中氏の下に實際的の會話を主として行はれてゐる。Suplementa libro として久保氏著「エスペラント會話」が用ひられてゐる。

◇講習會 松本孝太郎氏指導週 2 回開かれてゐる。用書學會發行短期講習用書。尙プリントを發行して補強工作をなす。初講中に海外通信を初める筈。

京都 會員の勤務の都合から中々集會を開けない。機關紙によつて會員相互の連絡をとつてゐる。他の會の會合に参加してゐる。

札幌 輪讀會は再び二つに、一つを Komencanto の爲に持ち用書は Facilaj fabeloj, 他は Ĉe doktoro を用ふ。共に會員諸氏の熱と力に拍車をかけてゐる。小森氏の發案になる Presajo に依る會話の練習もやつてゐる。

郡山 毎週一回金曜日の會合で Japanaj Fabeloj を平均 2 頁位讀んでゐる。

吹田 講習の Ezopo 講義も済み引續いて 30 分位時事問題に temo を採り會話の練習をしてゐる。

鐵・道・と・エ・ス

聯盟本部 11 月の指導：「ザメンホフ祭に備へよ」として、特にザメンホフ祭の集會に出られぬ人達の爲めに何を以てこれを記念すべきかを示し、且つそれを爲すべき事を奨めてゐる。その主なるものは次の通り、1. ザメンホフの傳記を讀むこと、2. ザメンホフの著作を讀むこと。

12 月の指導：「1935 年を省み將來に備へよ」として、1 年間を回顧し足迹に批判を加へ、將來に對しエスペラントへの關心を高める事が特に現状より緊要である所以を力説してゐる。

東京 ◇中等講習 12 月 2 日より初講に引續き中講が開催されることになった。會場は初講の時と同様である。時間は週 2 時間とし大體 1 時間宛 2 日であるが、講師の都合で 2 時間 1 日の箇所(新宿)もある。講師は次の通り、

丸の内 矢島 英男
新宿 栗山 かづ子
錦糸町 田中 信之

(以上初講同様)

新聞雑誌とエス語

★岡山毎夕新聞(12 月 14, 15, 16 日)——ザメンホフ祭に關し。

★中國民報(12 月 15 日)——ザメンホフ祭(宮崎珠太郎氏)。

★山陽新報(12 月 16, 17 日)——岡山とエスペラント(伊井迂氏)。

★大牟田時事新聞(1 月 1 日)——エス語採用論(中川年男氏)。

★同(1 月 7 日)——同上(2)

★愛媛新聞(12 月 14 日)——シェラーの日本紹介講演旅行記事(學會提供)。

★大空詩聞(N-ro 107-a)——エスペラントに就て(永田秀次郎氏)。

★Travel News (12 月 15 日)——Esperanto folder on travel in big demand.

★新教育研究 (12 月號)——接木とエスペラント——新川正一氏。

★學友會雜誌 (第二早高) 第 14 卷第 2 號——國際語に對する認識——小久保覺三氏。

★鐵道毎日通信 (1 月 1 日)——子の年と進化論とエスペラント語——小坂狷二氏。

★鐵道時報 (1 月 1 日)——外來の日本語と和製の外國語——小坂狷二氏。

★熊工會報 (熊本工業同窓會報) 第 5 號——紅毛雁信——坂崎延喜氏。

★旭川タイムス (1 月 18 日)——「世界を一つの言葉で……」夢は着々實現する——(七段ぬきの記事)。

★音づれ (京城豊川氏個人誌)——京城エス會寫眞。

★教育 (一月號)——「新撰和エス辭典」——小坂狷二氏。

★新聞之新聞——「新撰和エス辭典」。

PAROLAS MEMBROJ

規定：匿名のものは没とす。特に誌上匿名のものをのせる場合もあるが本名のものに優先權を與ふ

昨年度 R. O. は エス文が多くてよかつた

宮城縣 眞山政之

R. O. 新年號卷頭の言で叫ばれたことは我々エスペランティストとして實に感銘滿腔の敬服と全幅の賛意を惜しまない。「殊に我々は我々自身の使命と實力をよく認識し卑屈な態度をとつて却つて他のあななどをうけるが如きことはやめるべきだ」と。素的だ！我々は往々にして遺憾ながら卑屈すぎる嫌ひがあつたのではあるまいか。常に如上の言を體得してその弊におちいらぬやう心掛けねばならぬ。

近來この種運動に關して R. O. 誌上にしばしば叫ばれるのを見ることは實に嬉しい。これらの記事は全エスペランティストの綜合的意見と見るも差支へなからうと思ふ。否そうあるべき筈だ。又これらによつて全國の同志が意外にも解決の鍵を容易につかむことがあるであらう。今後ともこういった方面に指導的記事をお願いしたい。

次に R. O. の編輯上の希望をのべたい。一月號を見ると R. O. はもつと内地報道を大きくあつかつてエス文をへらせとの大方の希望の樣に見受けられる。勿論同誌は一般普及運動のためにつかはれねばならない。之等の報道によつて地方の同志は刺戟されるのだ。

併しエス文が輕視され申わけにのる様ではどうかと思ふ。強いてこの方面の意見が主張されるならば致方がないがしかしエスペラントは實用をぬきにして宣傳だけは考へられない。エスペランティスト中には *realistoj* もあつて代表的エス文の滿載を望んでゐるものも少くないと思ふ。従つて R. O. もエス文を華々しくのせねば物足りない。一般に *realistj* は實地に使用される方向にむかつて動くかたむきがある。而してこの實地にエス語を活用することが又外部へむかつて雄辯にエス語の宣傳の役をしてくれるものである。この一面を見のがしてはならない。

私は如上の意味に於て昨年における R. O. の編輯は或る點迄我々のこの希望を満足させてくれた近來の快事だと考へてゐる。今年も昨年同様大いにエス文をいれてもらひたいと考へる。

猶今後更に益々より大きく廣く最後の勝利にむかつて一路邁進我々エス運動を更に一般の大飛躍のため「特輯號」がどしどし出されんことをのぞむ。

〔編輯部より〕 今月號から別項記載の如く増頁を斷行したいと思ひます。増頁が斷行されればエス文も十頁内外は保存しますから御希望にそふことができませう。昨年度のエス文ばかりの頁數をしらべてみますと

1月號(15頁)	2月號(21頁)	3月號(19頁)
4月號(12頁)	5月號(19頁)	6月號(16頁)
7月號(12頁)	8月號(5頁)	9月號(0頁)
10月號(13頁)	11月號(6頁)	12月號(11頁)

合計 149 頁 每號平均 12 頁強です。

PAROLAS REDAKCIO

本誌編輯部の答やらお願ひやら

R. O. は昔は面白かつた？

古い會員はよく「Revuo Orienta は昔は面白かつたが此頃はちつとも面白くない」といふ。こういはれると編輯を擔當してゐる我々としてはできるだけ面白い記事をと

考へて編集部そなへつけの R. O. の古い年度の合本をひろげてみる。しかし案外なことには我々の眼から見ると昔の記事も今の記事もそんなに變つたものがないのである。尤も中には今みても相當面白いと思はれものもあるがそんなものはたまで毎月あるわけではない。

こうなつてみるとこの「昔は面白かつた」といふ古い會員の常套語には何か特別の意味があるのではないかと考へた。

こう氣がついていろいろ研究してみるとこの古い會員のくりごとは一般に「若い時分は面白かつたがこの頃は面白くないと云ふ」老人のくり言と大差ないものだとなつた。

編輯者自身の経験にきいてみてもなるほど十六七年前エスペランティストになつたばかりの時分の R. O. はあの僅か16頁の内容ではあつたが他に何等讀物のない時代だつたから頁の隅から隅までよんだ。中には何度もよみかへしたものもある。藤澤さんの *Impresoj en Vladivostoko* など態々ノートへうつしとつたこともおぼえてゐる。

今その時代の R. O. をくりひろげてみると十數年前の感激の記憶がよみがえつてくる。しかし冷かにここにでてゐる文章や記事を見ると今日の本誌の記事と大差ないものばかりである。

十數年前にそれをよんでなぜ感激したか。十數年後の今日それをよんでなぜ感激しないか。その理由は云ふまでもなく讀む人自身の語學力の進歩によるのではなからうか。

こう考へてみると十年前に學會へ入つた人にとっては十年前の R. O. が一番面白かつたのであるし五年前にエスペラントをやつた人にとっては五年前の R. O. が一番面白いのである。つまり R. O. の内容が面白いのではなく讀む人が興味をもつてよむから面白く感ずるにすぎないのである。

古い會員は毎月 R. O. をうけとつても殆んど讀まないのである。十年二十年學會の會員であつて一頁残らずよむ人が何人あるか疑問だと思ふ。特にエス文の讀み物をよむ人が何人あるだらう。「この頃面白くない」と口くせのように云ふ人で本當によんでみて面白くないと感ずる人もあらうが大抵の人は讀まないで頭からおもしろくないと悪くいふのである。讀まないで面白い面白くないかわからぬ筈だ。

R. O. はよむ人の氣持次第で面白くもあれば學習上に役立つものも多いのである。

今後 R. O. の編輯上で御注文や御意見をのべられる方々は「昔は面白かつた」といふ風な老人ぶつたくり言をやめてぜひ「R. O. の第何年何號のどの記事が面白かつたからあゝいつた記事をのせてほしい」と御注文していただきたい。又面白いと思はれる原稿を自分で書いて編集部へ御投稿下されたいと思ふ。

學會會員の入會年度別統計

本年一月初に會員名簿カードにより學會全維持員について學會入會年度別（その年度より今日迄繼續して維持員になつてゐるわけ）に分類し且總維持員數との百分比を見た所次の様な統計をえた。

入會年度	人 數	總人數との百分比
1920 年	42 名	4.0 %
1921 年	24	2.3 %
1922 年	39	3.7 %
1923 年	37	3.5 %
1924 年	21	2.0 %
1925 年	22	2.1 %
1926 年	32	3.1 %
1927 年	48	4.6 %
1928 年	43	4.1 %
1929 年	57	5.5 %
1930 年	53	5.1 %
1931 年	73	7.0 %
1932 年	105	10.0 %
1933 年	83	7.9 %
1934 年	153	14.6 %
1935 年	214	20.5 %

計 1046 名

(外に9名は入會年度不詳。猶外人16名は除く)

即ち會員 1071 名中不明をのぞき 1046 名についてしらべてみると昨年新に入會したものの 214 名である。即ち全會員の五分之一を占めてゐるのである一昨年と昨年の入會者を合すると 367 人で全體の三分の一強である。1932 年から 35 年迄四年間に入會した人が合計 555 人で全員の五割三分即ち過半數を占めてゐるのである。この統計を見ると學會の全員の大半は新しい會員が多いと云ふことがわかる。又これらの人々の大半が R. O. をとるために會員になつてゐるのぢやないかと考へさせられる點も多い。もし學會をどこまでも支持しようといふのならば會員はそれほど新陳代謝をしないだらうと思はれる。

編輯後記

編輯部

★新年早々に學會々員の入會年度別統計をとつてみた。その結果は本誌 39 頁に示した様である。つまり學會々員の五割三分は1932年以後入會の會員である。してみると會員の新陳代謝のはげしいこともわかる。そしてその事實は會員は會の事業を支持するといふよりも雑誌をよみたいといふ氣持であるらしいことがわかる。

それで本誌の頁數もなんとかしてふやしたい。頁數がふえ面白い讀み物がふえればキツト會員が益すにちがいないと考へた。こう考へてくると矢も楯もたまらなくむしように増頁がしたくなつてくる。

しかし昨年本文廿八頁を一躍四割三分増の四十頁にするには仲々困難だ。しかし増頁するなら四五頁では面白くない何とかして四十頁にしたい。いろいろ考へたあげく結局これだけの増頁による支出増加だけを新會員の會費でうみだすことにしたなら學會の會計に故障をおこさずとにかく一年間はやれることに考へつく。

といつても昨年一箇年間に 214 名の新會員をえてゐるのだから自然増加の新會員が二百名あつても退會がやはりその位あれば plus minus 0 にすぎない。この自然増加の新會員を目あてにはできない。

ではどうするか。やつぱり各地方會の御盡力によつて本誌増頁の爲の新會員を極力募集してもらふのがもつとも確實らしい。地方會は百位はある。責任をもつて一つの會で一人ふやしてくれれば立所に百名はできるのだ。まづこゝに目安をおいた。つまり百名の新會員の増加によつて二百四十圓がうかびあがる。月額二十圓である。こう考へると大體の plano はできあがつた。

それでまづこの案をひつさげて會計部に交渉した。會計部はすぐ賛成してくれた。

次に印刷所だ。月二十圓で 12 頁ふやせるものかどうかだ。きいてみると大分ひらきが

ある。それではかなはぬ。何とかしてもらひたい。いろいろ交渉の末いろいろ工夫して何とかしてみようといふことになつた。

さて地方會で支持してくれるかどうかが一寸心配。不安と焦躁をいだいて地方會へ檄をとばす。

双手をあげて賛成といふ言葉と共に一人二人と新會員を紹介するといふ力強い支持の手紙が毎日一通二通とまいこんでくる。(詳細廣告頁参照)。かくして今日は既に六十名を突破した。地方會幹部の熱と力の賜物だ。たゞ感謝あるのみだ。この熱烈な支持に對しては唯何とかして誌面を充實し且つ興味ふかいものとしなければならぬと深く決心した。

あとの不足の四十名も地方會の方々や會員各位の御盡力によつて二月十五日頃迄には何とかしてうめあはせて所期の百名は實現させたいと思つてゐる次第です。皆様の御支持をひたすら懇願致します。

★本號から體裁が大分變りました。これは増頁の結果編輯部の仕事もふえますのでそれを單純化するのが主目的です。原稿をお願いしてもピツたり二頁とか三頁とかは仲々かきにくいものです。餘白ができることは編輯者の頭痛の種です一段組でおひこんでゆく今度のやり方だとこの方面の心配がいらぬのですくはれます。

★初めは見慣れない體裁なのでお叱りをこうむるかもしれませんがなれればこれの方がスツキリして見よいとの確信をもつてゐます。

★おことわり——内地報道中「地方會機關誌その他」は次號へまわしました。

本誌原稿募集

いただきたい原稿は 1. どうい

つた宣傳が有効だつたか (一般的理論でなく實際あつた具體的の事實)。2. こういつた宣傳をしたら (これもなるべく卑近なしかも實行可能なもの)。3. 特別な宣傳のやり方をやつた人の話。4. エス語を知つてゐたため出世したり利益をえた話。等々。御投稿は返却しません。他の人の記事との重複をさけるため編輯部で短くすることがあるかもしれません。豫め御了承を。

★R. O. 昨年度合本したい方は 2 月末日迄に雑誌を學會宛送附の上代金 40 錢(返送料 12 錢)添へ申込まれたし。

絶版!!!

Ellersiek の発行書はすべて絶版になりました。御入用のものは今のうちにお買求めあさください。再び入手することは不可能かと存じます。下記のもものがそれぞれ少部数づつ在庫してをります。《Karlo》は品切れになりました。御注文は即刻。

1. 勝手ながら同一書籍を二冊以上とりまとめたの御注文はお断りします。
2. お申込順にお送りいたしますから、品切れのばあひの代品名をお書き添へください。

	円	送料	
Heine: ATTA TROLL	0.60	2	<input type="checkbox"/> BIBLIOTEKO TUTMONDA <input type="checkbox"/>
Artefarita Altmontarsunbano	0.25	2	Arto de Memdisciplino, Bonhumoraj Rakontoj [各 30 銭, 送料 2 銭]
Christaller: Deutsch-Esp. Wörterbuch	6.50	15	Grekaj Papirusoj, Vojaĝoj kaj Aventuroj de
Eĉ en Doloro ni estu ĝojaj	0.30	2	Barono Munchausen, Homa Lingvo, Evoluo
Lessing: Natan la Saĝulo	0.60	4	de Telefonio [各 60 銭, 送料 2 銭]
SANKTA MATEO	0.30	2	Kapitanfilino [90 銭, 送料 4 銭]
Christaller: ESPERANTO	0.95	4	ESP. BIBLIOTEKO INTERNACIA
UNIVERSALA LEGOLIBRO	0.80	4	Rusaj Rakontoj, Don Kihoto, Amoro k. Psiĥe,
Universala Esp. Lernolibro I	1.00	4	Bulgaraj Rakontoj, Komerca Korespondado,
" " II	0.75	2	Reĝo de la Ora Rivero, Lasta Usonano, Hungaraj Rakontoj, Instituto Milner, Noveletoj el
VARMOKULTURO	0.50	2	Nigra Arbaro, Intervidiĝo, Elzasaj Legendoj,
Die Verhältniswörter	0.60	2	Amkonkurantoj [各 25 銭, 送料 2 銭]
財団法人 日本エスペラント學會			Japanaj Rakontoj, Reaperantoj [各 50 銭, 送料 2 銭]

13-a eldono

BES

1937

ADRESARO

—— 豫約募集 ——

3月31日までに豫約金を添へてお申込みの方には文通希望廣告を無料で掲載

BES adresaro はすでに12版を出し國際文通希望者必備の住所録とされてゐます。これ一冊あれば全世界あらゆる國のあらゆる社會の同志とあらゆる話題について文通あるひはあらゆるものを交換することができます。1937年版は今秋九月乃至十月にはできる見込みですが、上記の締切日までに本會あてお申込になれば、文通希望廣告を掲載した上、その掲載された住所録を配布されます

豫約價 [文通廣告二行まで掲載料とも] 60 銭

廣告文が二行を越すときは一行毎に 30 銭増し
寫眞掲載 [Fraŭlino の申込歓迎] 30 銭増
商業廣告 [詳細は御照會を乞ふ]

豫約希望者は二銭切手封入お申込みあれば申込用紙をお送りします

BES-ADRESARO

1935-6 年版

定價 60 銭・送料 2 銭

財団法人

日本エスペラント學會

エスペラント文庫

各篇とも菊半截 8 ポイント活字横組
用紙上等、印刷鮮明、装幀瀟洒、携帯至便

・最新刊・

5 エスペラント翻譯實驗室

中垣虎兒郎著

二〇〇ページ
七十錢・送料二錢

「エスペラント文學」に連載し好評を博したものに書下しを加へて一冊としたもの。エスペラント翻譯者は勿論、研究家、學習者の必ず再讀三讀玩味すべき好著。

小林「蟹上船」、芥川「密柑」等の名作八篇を材料としての翻譯實驗。それぞれ、材料、テクスト、材料検討、實驗、譯文、その他にわけ、名譯として知られる「豊年飢饉」には、その批評と答へを添へ、更に「後書き」には「辭書に就いて」「ネオロギスモについて」「敬語敬稱」等翻譯者にとつて最も有用な記事滿載。

4 エスペラント會話

久保貞次郎著

一二〇ページ
四十錢・送料二錢

エスペランチストの會合にぜひ必要な用句を網羅し、全篇残らずが今日直ちに役立つて使へるものばかり。著者はエスペラントの雄辯家として知られる人。この人のこの著、本書こそ模範的會話書として誰にも推奨できる。

〔附録 分類語彙〕

社會百般の必須語を各部門に分類配列し、これだけでも同志が常にポケットにしのばせておくに足るものである。

1 ザメンホフの生涯

ブリゾア著 一四七ページ
松崎克巳譯 四十錢・送料四錢

エスペランチストは誰しもエスペラントの創始者ザメンホフを知り、エスペラントのよつて生れた精神を知らなければならぬ。エスペラントの學習を奨めるまへに本書を與へるならば本書は必ず彼の魂を捉へるであらう。

2 世界語の歴史

ドレーゼン著 クロース装・四六四頁
高木 弘譯 一圓五十錢・送料八錢

エスペラント理論界の雄ドレーゼンの二十餘年の研鑽の名著。言語學の教授たちが問題になし得ない國際語の問題を歴史的に研究し、國際語の必然性を歴史的に科學的に實證したもので、エスペランチスト必讀の書である。

3 國際通信の常識

石黒 修著 一二六ページ
五十錢・送料四錢

國際通信をするにあつてぜひ心得ておかなければならない萬般の知識を寫眞版數十葉入りで收めたもので、エスペランチストであるとないとにかかはらず、およそ國際文通をする者が座右を離してならない參考書である。

財團法人 日本エスペラント學會

東京 本郷 元町・振替東京 11325 番

■エス和は

和
エ
ス
は

新撰エス和辭典

岡本好次編
増補改訂版

並製(クロス装)六十錢・送料四錢 ★ 上製(革装)八十錢・送料四錢
第五十版紀念千部限定特製版(印度紙印刷革装薄型)八十錢・送料二錢

エス和辭典中最良なるものとして定評ある本書はすでに五十版に達し我が國エスペラント運動史上に燦然たる金字塔を築きあげた。型はポケットに忍ばすに適する小型であるが、語彙は最新のものに到るまで収載して最も豊富であり、譯語は最も正確である。

五十版紀念版は最上質のインド紙刷で極めて薄形であるから、日常携帯用に最好適である。一千部賣切後は再製しないから至急買求められよ。

岡本好次
新撰
エス和
辭典

最新語彙
正確譯語
鮮明印刷
至便攜帶

最大內容
明白典據
堅牢製本
廉至價格

見出語約七萬；各種專門語，最新語網羅
攜帶に至便なコンサイス型 (7.5 × 15 cm)
二段組，一段 67 行・總紙數 824 頁
優美で，堅牢な革表紙，瀟洒な金文字入
薄手で，優秀なユニオンB印26折紙使用
鮮明無比な最新技術による寫真凸版印刷
普通語彙 674 頁，人名，地名，星座名 70 頁
和文エス譯その他日常必要な附録 50 頁

定價二圓五十錢・送料六錢
內容見本入詳細な説明書お申込次第送呈

財團
法人

日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一丁目

電話小石川 5415 番
振替東京 11325 番



エスペラント

▷ 二月號 ◁

映畫物語：桃^{トウ}源^{ラン}境^{ドット}

ドイツ・ウファ超特作映畫の物語
詳註附エスペラント文・寫眞多數入

中垣虎兒郎：悲慘のどん底

カーベの名譯で名高い《Fundo de l' Mizero》の紹介と鑑賞

《空の蚤》には羽根がある

氣輕に勉強できる初等よみもの。

岡本好次：^{アクセントのある}母音は長いか

エスペラントのアクセント問題の解説。

高木 弘：世界的^{エスペラ}の横顔^{ンチスト}

現代の知名エスペランチスト列傳。

小坂狷二：前置詞略解・AL

初等中等の人々の爲の親切的な講義。

倉地治夫：文の組立の研究

エスペラント作文の基礎知識。

エスペラント譯唱歌：アニ・ロオリ

高橋肇：東京〔地方會を中心として・2〕

Por Rideteto・へろるど えすぺらんた・
香港だより・質疑應答・作文課題・等等

定價 1 部 20 錢

・ 送料 5 厘 ・

全國各地書店にあり
1 年分前金 2 圓 30 錢
半年分前金 1 圓 20 錢
見本切手 10 錢

財團法人 日本エス
ペラント學會
東京本郷元町番
東振替東京 11325

昭和十一年二月一日發行（毎月一回一日發行）
ラ・レゾ・オ・オリエンタ（エスペラント研究）第十七年第二號

定價廿錢（送料二錢）

編輯印刷
兼發行人

財團法人 日本エス
ペラント學會
右代表 大井 幸